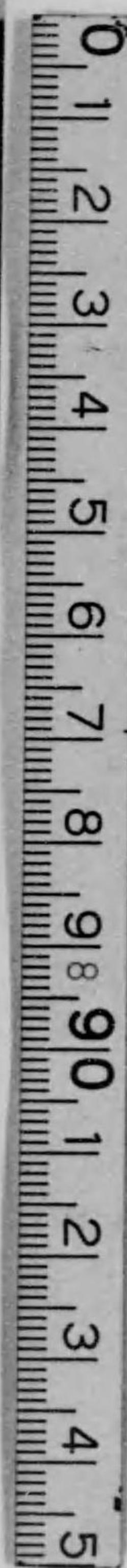


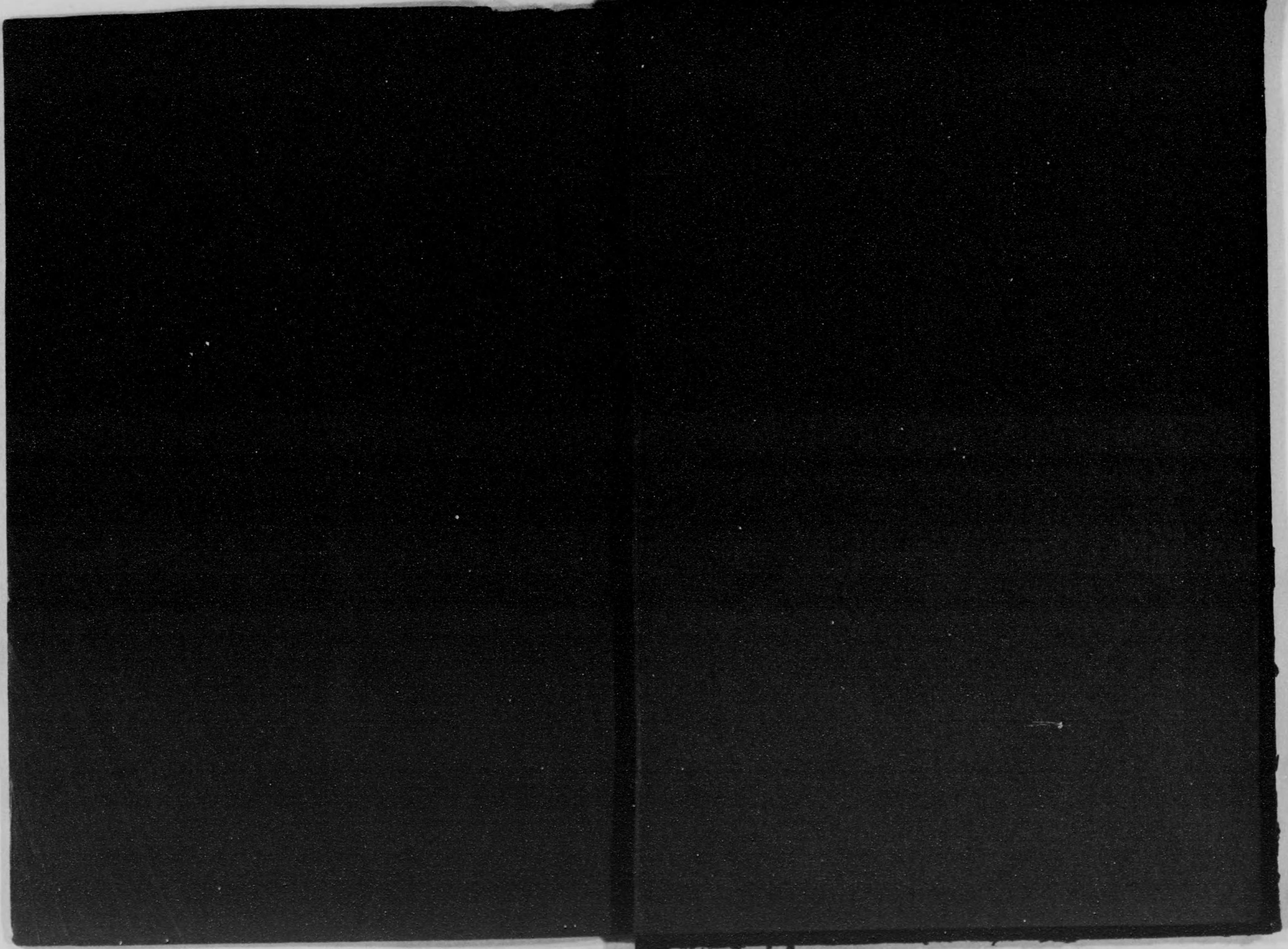
14.5

145



始





145
145

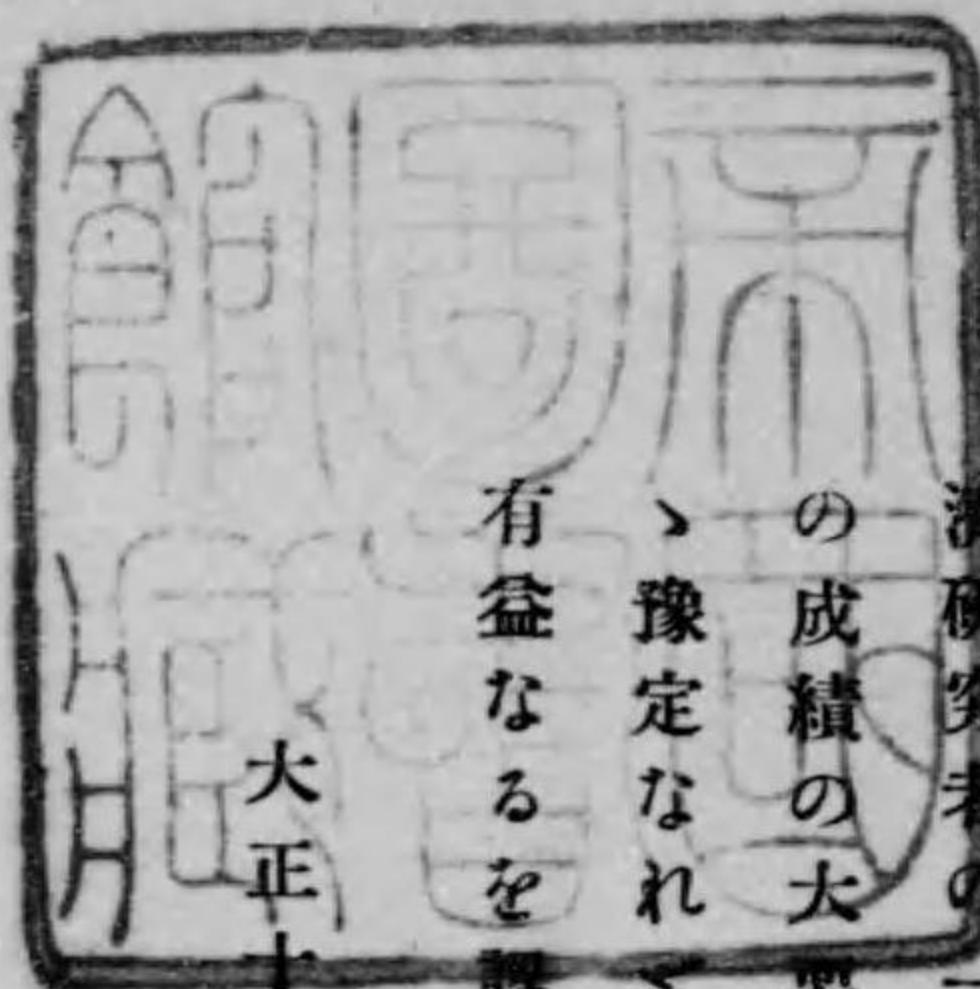
大正十四年六月 日（紀要第三號）

法學士木村増太郎君報告

支那財政ノ眞相ト其革新策ニ就テ

財團法人啓明會

145-145



大正十四年六月

財團法人啓明會



支那に關する諸問題中其財政の研究は最も緊要なる一事項とす、而も從來此種の計企殆んど存せず、頗る遺憾とせし所なり。法學士木村増太郎君は支那財政經濟研究者の一權威なり。大正十二年以來本會援助の下に本研究に從事し、最近その成績の大要を報告せられたり。遠からずして別に詳細なる報告を發表せらるゝ豫定なれども、右大要報告は支那財政の真相並にその對策の大綱を知るに頗る有益なるを認め、依て茲に版に附して研究者の参考に資せんとする。

今 寄贈本

財團法人啓明會紀要

- 第一號 理學博士 岡村金太郎君 編「往來物目錄」
第二號 文學博士 矢吹慶輝君 編「英國博物館所藏スタイン寫本寫真帖」
第三號 法學士 木村増太郎君報告「支那財政ノ真相ト其革新策ニ就テ」

序

支那ノ財政ハ、其特異ノ國情ニ基キ財政學上大ニ研究ノ價值ガアルノミナラズ、近來支那ガ財政上一大危機ニ瀕セルガ爲メニ、動モスレバ其結果東亞ノ平和ガ脅サレントスルノ傾向ガアルカラ、之ガ究明ハ我東亞政策上ヨリスルモ一大急務タルヲ失ハナイ。是ヲ以テ自ラ揣ラズ大正十二年四月以来財團法人啓明會ノ援助ノ下ニ之ガ研究ニ從事シ、今ヤ漸ク其大綱ヲ捕捉スルヲ得タカラ、爰ニ其一端ヲ叙シ、以テ研究報告ニ代ヘント欲スル次第デアル。但シ支那財政ノ紛糾錯雜セルコトハ實ニ驚ク斗リデアツテ、之ガ叙述ハ到底容易ノ業デナイカラ、完結ハ本年中ニ之ヲ期シ、唯爰ニハ財政實相ノ大綱並ニ改革私案ノ一端ヲ記スニ止メタイト惟フ。

因ニ支那財政ノ研究上参考スルニ足ル主要出版物ハ左ノ如クデアル。

1. P. H. Clements, The Boxer Rebellion.
2. M. T. Z. Thau, China's New Constitution, and International Problems.

3. H. G. W. Woodhead, *China Year Book*.
4. T. F. Wade, *Chinese Currency and Revenue*.
5. W. F. Mayers, *The Chinese Government*.
6. Chinese Maritime Customs Publications:

Land Tax.

Railways and Inland Taxation.

7. S. R. Wagel, *Finance in China*.
8. T. W. Overlach, *Foreign Financial Control in China*.
9. M. J. Bau, *Foreign Relations of China*.
10. W. W. Willoughby, *Foreign Rights and Interest in China*.
11. W. T. Lay, *Governor Generals and Governors of the 18 Provinces*.
12. H. Stinger, *The Chinese Railway System*.
13. J. Arnold, *Commercial Handbook of China*.
14. P. P. Thoms, *On the Revenue of China*.
15. Huttmann, *On the Public Revenue of the Chinese Empire*.

16. W. Williams, *The Middle Kingdom*.
17. H. L. Huang, *Land Tax in China*.
18. H. B. Morse, *The International Relation of the Chinese Empire*.
19. J. V. A. Mac-Murray, *Treaties and Agreement with and concerning China*.
20. Chin Chu, *The Tariff Problem in China*.
21. W. F. Mayers, *Salt Monopoly in China*.
22. M. Stephenson, *Railways in China*.
23. J. W. Jamieson, *Revenue and Expenditure of the Chinese Empire*.
24. J. Edkins, *The Revenue and Taxation of the Chinese Empire*.
25. Omiot, *Revenu de l'empire de la Chine*.
26. E. Biot, *Mémoire sur la constitution politique en Chine*.
27. H. Maron, *Bevölkerung und Grundeigenthum in China*.
28. G. Padoux, *The Financial Reconstruction of China*.

- 一、中國財政史
二、中國關稅問題
三、國債輯要(蔣士立)
四、中國豫算制度趨議
五、中國釐金問題(王振先)
六、鐵路借款合同彙編
七、民國財政史(賈士毅)
八、民國財政論綱
九、民國行政紀要第一卷
十、皇朝政典類纂
十一、續文獻通考
十二、清國行政法第五卷第六卷
十三、內國公債彙覽
十四、中國財政問題公債論(晏才傑)
十五、同上租稅論
十六、中國財政論綱(周棠)
十七、財政法規(財政部編)

大正拾四年四月

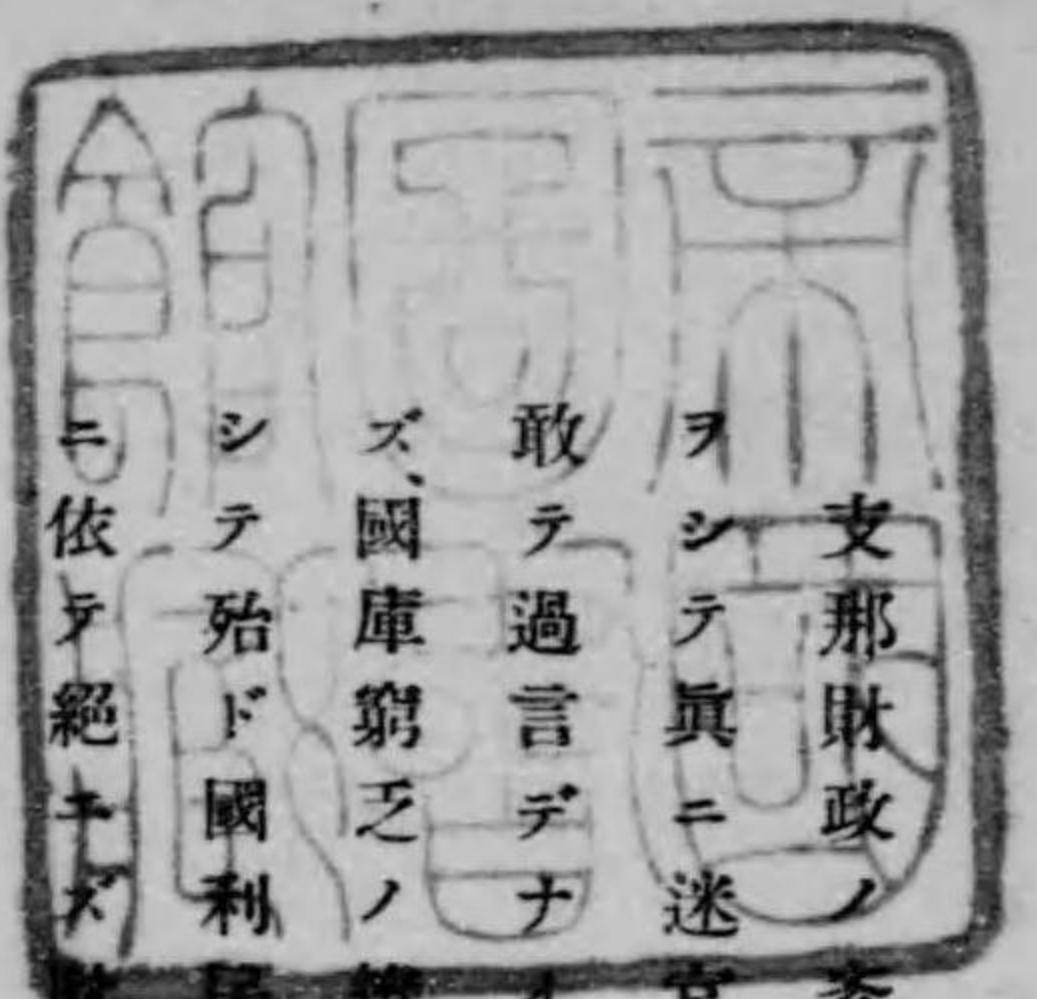
木村增太郎

目 次

第一 緒 言	一
第二 財政窮乏ノ經過ト借款	五
第三 歲出入ノ現狀	一三
第四 財政組織	一〇
一 財政機關及系統	一一〇
二 會計制度	二七
第五 財政整理問題	三五
第六 國際共管問題	四五
第七 結 言	五六

支那財政ノ真相ト其革新策ニ就テ

第一 緒 言



支那財政ノ素亂錯綜セルコトハ、恰モ彼ノ國狀ノ混沌不統一ナルト同様デアツテ、人ヲシテ眞ニ迷宮裡ニ入ルノ感アラシメ、其真相ヲ究ムルコトハ殆ド不可能ト言ツテモ敢テ過言デナ。然レドモ已ニ清朝ノ末年以來、常ニ歲出入ノ均衡ヲ保ツコトガ出來ズ、國庫窮乏ノ慘狀日一日ヨリ甚大ナルハ、疑ナキ事實デアル。之ガ爲メニ啻ニ内ニ對シテ殆ド國利民福ニ資スルニ足ル施政ヲ爲スヲ得ナイノミナラズ、外ニ對シテハ借款ニ依テ絶えダ財政上ノ破綻ヲ補救セザルヲ得ズシテ、其結果一時ハ熾烈ナル列強ノ利權爭奪ヲモ招致シ、各國ヲシテ樞要ノ地ノ租借ニ亞イデ、鐵道政策ニ銳意セシメ、以テ各其勢力範圍ノ確立ニ腐心セシムルコト、ナリ、遂ニハ將サニ國際租上ニ於テ分割サレントスルノ形勢ヲスラ馴致スルニ至ツタ。而ルニ其後歐洲戰爭ノ勃發ト、極東經營ニ

立チ遅レタル米國ノ劃策トニ由ツテ、各列強ノ獲得シタル利權モ、多クハ一九二〇年ニ成立シタル新借款團ニ依テ統一セラル、コト、ナリ、漸ク瓜分ノ悲運ヲ免ル、コトヲ得タ。然レドモ支那財政ノ窘窮紊亂ハ、更ニ一層甚シク、今ヤ一大危機ニ瀕スルニ至リ、而カモ支那ノ自力ヲ以テシテハ、到底遽ニ回運ノ望ナキコトノ瞭カトナツタ結果、爰ニ復タ支那ハ國際間ニ共同管理セラレントスルノ氣運ヲ形成スルニ至リ、東亞ノ暗雲ハ尙依然トシテ容易ニ一掃セラル可クモノイ。

斯ノ如クニシテ支那財政ノ紊亂ハ、絶エズ東亞ノ平和ヲ脅カス根源トナリ、之ガ爲メニ政治ノ基本モ確立セズ、國內ノ統一モ完整セラレズ、延イテ對外貿易モ振ハナイモノデアルトシテ、晚近屢次國際間ノ議案トナリ、其結果是迄列國共同ニテ政治借款ニモ應ジ、又我國ノ如キハ一時單獨ニテ巨額ノ政費ヲ貸付ケ、財政ノ整理國內ノ統一ヲ助成センコトヲ圖ツタ。而ルニ其結果タルヤ、唯徒ラニ政界ノ混亂腐敗ヲ助長シ、益々財政ヲ紊亂セシメタノミデ、財政ノ改善乃至政界ノ革新ニハ寸效ヲモ寄與スル所ガナカツタ。於是乎多少タリトモ支那ノ財源ヲ増シ、其根本的救濟策ニ助力ヲ與フルコトガ急務デアルトシテ、更ニ一九二二年ノ華府會議ニ於テ、支那ノ關稅改正ヲ認ムルニ至ツタ。即

チ同會議ノ決議ニ據ランカ、直ニ輸入稅率ヲ現實從價五分ニ改訂スルト共ニ、本條約實施後三ヶ月以内ニ各國ノ特別委員會ヲ開催シテ、豫テ支那ト英米日葡トノ間ニ條約ヲ以テ協定シタ所ノ、厘金制度ヲ全廢スル代リニ、輸入稅ヲ從價一割二分五厘ニ増加スベシトノ、所謂裁厘加稅ノ實行準備ニ着手スルコト、シ、且ツ之ガ實施ニ至ル迄ノ暫定辦法トシテ、當分一般輸入品ニハ從價二分五厘、特ニ奢侈品ニハ從價二分五厘以上五分迄ノ附加稅ヲ課スルコトニ付キ協議センコトヲ認メタノデアル。其結果其後間モナク現實五分稅ノ改正ハ行ハレタガ、條約國ノ一タル佛國ガ金法問題ノ未解決ヲ盾トシテ、該關稅條約ヲ批准セナイ爲メニ、未ダニ上記特別委員會ガ開催セラル、ニ至ラナイカラ、隨テ裁厘加稅ノ實行準備モ附加稅ノ實施モ未ダ着手セラル、ニ至ラナイガ、恐ラク近キ將來ニハ實現セラル可ク、而カモ其曉ニハ附加稅ノミニテ當面新ニ三千萬元内外ノ財源ガ獲ラルベシト言ハレテ居ル。

世人ハ往々支那ヲ衰亡ニ導クモノハ、其財政ノ窮乏デアルカラ、支那ヲ救ハントスレバ、先づ其國庫收入ヲ豊富ナラシメネバナヌト論ジ、而シテ其歲入ノ財源トシテハ、關稅ノ如ク確實ナルモノハ他ニ無イト共ニ、其國情並ニ財政組織ニ照シテ、其歲入ノ多ク

ヲ一般文明國同様ノ財源ニ求ムルコトハ、實ニ至難デアルト主張スルノデアル。華府會議ニ於テ、列國ガ支那ノ關稅改正ニ同意シタノモ、畢竟同會議ノ劈頭ニ於テ、支那ニ關稅シ決議シタ彼ノ四大原則ノ一トシテ、「支那ガ有力ニシテ且基礎ノ鞏固ナル政府ヲ完成支持スル爲メニ、支那ニ對シ十分ニシテ無制限ナル機會ヲ與フル」旨ヲ定メタ關係上、鞏固ナル政府樹立ノタメ、先づ其財政ノ根本ヲ涵養スルヲ急務トストノ趣旨ニ基ケルモノニ外ナラナイ。勿論徒ラニ支那ニ借款ヲ重ネシムルハ、百害アツテ一利ナキハ、過去ノ實見ニ照シテ明カデアリ、且主要財源ヲ關稅以外ノ一般租稅ニノミ求ムルコトノ困難ナルハ、疑ナキ所デアルガ、去リトテ支那財政ノ困窮ヲ救ハシムガ爲メニハ、關稅收入ガ最モ確實デアルトノ故ヲ以テ、主トシテ本收入ノミニ信賴シタナラバ、如何ニ關稅ヲ増徵スルモ、殆ド究極スル所ガナイ。加之關稅ノ増徵ハ、列國就中我國ノ貿易ニ至大ノ影響ヲ與フルト共ニ、支那ノ經濟ノ發達ニモ必ズシモ有利トノミ斷ズルヲ得ナイ。寧ロ夫レヨリモ支那ノ財政ヲ危機ニ導イタ其根源ニ向ツテ、多少タリトモ革新ノ斧鉞ヲ容ル、コトガ急務デアル。然ラズシテ徒ラニ財源ヲノミ求メントスルモ、畢竟所謂燒石ニ水タルノミデアル。而シテ又世上支那ヲ財政上ノ無能力者ト認定シ、財政ノ整理

乃至革新ハ一二列國ノ共管ニ俟ツノ外ナキヲ高調スル者ガ少ナクナイガ、果シテ然ルヤ否ヤ、以下聊カ支那財政ノ窮乏ヲ加フルニ至ツタ經過ノ大要並ニ其財政組織ノ根本ニ對シ管見ヲ試ムルト共ニ、進ンデ其革新策ニ付テ卑見ヲ陳ベタイト惟フ。

第二 財政窮乏ノ經過ト借款

盛清ノ世ニ在テハ、刑ヲ嚴ニシ賦ヲ輕クシテ民ニ臨ミ、民ヲシテ其威ニ畏レ其德ニ懷カシムルノ策ヲ採ツタト共ニ、他方何等積極的政治ヲ施スコトガナカツタ爲メ、康熙雍正乾隆ノ間ニ在ツテハ、比較的財政裕デアツテ、國庫ニ常ニ餘帑ヲ貯ヘタガ、其後嘉慶道光ニ至ツテハ、紀綱漸ク弛ミ、憂患相繼イデ起リ、遂ニ同治六年（七八六）初メテ外債ヲ起シ、續デ光緒十三年（八八）ニ至ル迄ノ二十年間ニ於テ、外資ヲ借入ル、コト六百八十四萬磅餘ニ及シダ。然レドモ此等ノ外債ハ、何レモ期限短カク、而カモ爾後内憂外患ノ起ルコトガナカツタ爲メ、多クハ光緒二十年前後マデニ、悉ク償還スルコトガ出來、未ダ財政上ノ累ヲ爲スニ至ラナカツタノミナラズ、兎ニ角財政自給ノ地位ヲ保持スルコトガ出

來、當時ノ歲入平均約八千三百五十萬兩、歲出約七千七百五十萬兩デアツテ、毎年約六百萬兩内外ノ剩餘ヲ示シタトノコトデアル。而ルニ光緒二十年、日支干戈ヲ交ユルニ至ツテヨリ、爰ニ財政擾亂ノ端ヲ啓クコト、ナリ、遂ニ清朝及ブ可ラザルノ侮ヲ遺スノ基ヲ爲スニ至ツタ。即チ同戰役ノ勃發ト同時ニ、創メテ内國債ノ募集ヲ企テタガ、到底成功スペクモナク、戰費並ニ賠償金ノ大部分ハ外債ニ賴ルノ外ナカツタガ爲メニ、支那ハ遽ニ五千四百四十五萬五千磅ノ巨額ノ外債ヲ負擔シ、爾來毎年償還ス可キ外債二千五百萬兩ヲ算スルコト、ナリ、當時八千八百萬兩ノ歲入ニ對シテ、歲出ハ俄然一億兩ヲ超ユルニ至リ、中央政府ノ財政大ニ重キヲ加ヘタノミナラズ、政府ノ威嚴マタ昔日ノ如クナラズ、延イテ爾後新ニ列國ノ利權爭奪ヲ誘致スルコト、ナツタ。其結果更ニ光緒二十六年(一九〇〇)義和團事件ナルモノ突發シ、日清役ノ深創ノ未ダ癒エザルニ、更ニ支那ノ財政ヲ瀕死ノ窮境ニ陷ルコト、ナツタ。團匪ノ賠償一項ニテ既ニ四億五千萬兩ニ上リ、毎年約二千二百萬兩ヲ分償スルコト、ナツタ爲メ、舊債ト合算シテ、毎年ノ外債償還額ハ今ヤ四千七百萬兩ノ巨額ニ達スルニ至ツタ。因テ此等ノ負擔ハ、夫々之ヲ各省ニ分擔セシムルコト、シタケレドモ、當時中央及各省ハ何レモ新政ノ勵行ニ力メ、之ガ爲

メニ警務及教育經費ノ如キ殊ニ多額ヲ要シ、經費ノ膨脹ハ獨リ敢テ中央ニ限ラナカツタカラ、各省ノ貢賦モ意ノ如クナラズ、加フルニ爾來列國ノ壓迫ハ日ニ益々甚シク、實ニ内憂外患交々相迫ルノ狀態ヲ呈シタルガ爲メ、爰ニ政治革新ノ議沸然トシテ起リ、遂ニ立憲豫備ノ舉トナリ、自強策ヲ講ゼントスルコト、ナリ、延イテ益々財政ノ困厄ヲ加フルニ至ツタ。於是乎一九〇六年詔命ヲ發シテ、中央官制ノ改革ヲ企ツルト共ニ、多年ノ積弊ヲ除却シテ財政ノ一大整理ヲ圖ラントシ、各省ニ清理財政專員ナルモノヲ特派シ、根本的ニ財政ノ釐革ヲ企圖スルニ至ツタ。然レドモ積年ノ宿弊ハ到底一朝ニシテ一掃ス可クモ非ズ、毎年ノ歲出ハ光緒ノ末年ニ至ツテハ、已ニ二億ヲ超エ、宣統ニ入ツテハ二億七千萬兩ニ上リ、遂ニ同三年ニハ三億ニ達スルニ至ツタガ、地方ノ送金之ニ伴ハズ、中央ノ難愈々極マルニ至ツタ。是ヲ以テ政府ハ已ムナク當時列國ノ利權爭奪ニ熱中セシヲ利用シテ、各種ノ經濟借款就中鐵道借款ヲ起シ、之ガ流用ニ依テ以テ纔ニ政費ノ補救ヲ圖ルノ狀態デアツタ。斯ノ如ク財政ノ紊亂甚シキニ至ツテハ、遂ニ清朝滅亡ノ已ムナキニ至ルハ、數ノ免レザル所デアツテ、明ハ其當初ノ歲入四百萬兩デアツタモノガ、末年ニハ千六百七十萬兩トナツテ亡ビ、清ハ四千萬兩ノ財政ガ、三億兩ニ膨脹シテ終

リヲ告ゲタルヲ觀レバ、租稅ノ輕重ヲ以テ政治ノ善惡ヲトスル支那ニ於テ、今更ナガラ財政ノ歷朝ノ興廢ニ關スル所ノ重且大ナルヲ惟ハザルヲ得ナイ。

ヲ繼承シタル革命政府ハ更ニ一九一一年十月ノ事變勃發以來、各省ノ送銀殆ンド杜絶セシニ加ヘ、軍隊ノ解散其他ノ臨時急ヲ要スルノ失費頗ル多ク、且經常的歲出ニ於テモ、南北八十箇師團ノ費用毎月八九百萬兩ニ上ルヲ始メトシ、從來ニ比シ、增加セシ經費總計約一億五六千萬兩ニ及ブニ至ツタ爲メ、中央ノ財政ハ一ニ全ク外債ニ依ルノ外他ニ途ナキコト、ナリ、列國モ亦タ競フテ支那ニ資ヲ貸シ大ニ爲スアラントスルニ至ツタ結果、茲ニ各種借款雜然トシテ相繼デ起リ、民國元年ノ瑞記借款及クリスピ借款ヲ初メトシ、四國財團ノ善後大借款等、各種ノ經濟借款ヲモ合セテ、民國三年末迄ニ合計約四億六千萬元ノ巨額ニ上リ、平均五分半ノ利率トシテモ、利子ノミニテ既ニ二千三百萬元ヲ超ユルニ至ツタ。加フルニ地方ハ歲入ノ不足ヲ中央ニ訴ヘテモ、中央ハ各省自ラ策シテ救フ可ク、到底地方ノ急需ニ應ズルコトガ出來ナイトテ、之ガ補救ヲ爲サナカツタ爲メ、勢ヒ各省ハ隨意ニ外債ヲ起シ、遂ニ各地方ノ財政ヲ全然獨立セシムルコト、ナツタ。

而シテ彼ノ善後大借款ノ成立ト共ニ、借款ノ支途ハ四國團ノ監督ヲ受クルコト、ナリ、從來列強ノ支那内政ニ干涉スルノ例ヲ起スモノトシテ、支那ノ最モ欲セナカツタ所ヲ遂ニ實行スルニ至リ、愈各國ノ支那財政管理ノ端ヲ開クコト、ナツタ。併シ夫レデモ民國三四年ハ、袁氏大權ヲ獨攬シ、疆吏唯々其命ヲ奉ジテ、中央納入稅款ノ藏留ヲ敢テスルモノ少ナク、漸次各省ノ送銀增加スルニ至ツタカラ、大ナル破綻ヲ暴露スルコトナク彌縫スルヲ得タガ、一タビ袁氏ノ帝制ヲ企ツルニ及ンデハ、財政ト施設トハ漸ク正執ヲ失ヒ、殊ニ袁氏倒レテヨリ後ハ、海內割據ノ象顯ハレ、財政更ニ復タ紊ル、ニ至ツタ。而シテ袁氏時代既ニ軍政膨脹シテ中央ノ支出三億ヲ超ユルニ至ツタガ、歐洲戰爭勃發後ハ借款意ノ如クナラズ、纔カニ内債ノ濫興ニ依テ一時ヲ糊塗スルノ有様デアツタ。併シ民國六年以後ハ、我國ノ段内閣援助ニ伴フ幾多ノ單獨借款ノアツタニ加ヘ、支那ノ參戰ニ依テ義和團事件賠償金ハ五箇年間元利ノ支拂ヲ延期セラレ、其間毎年一千九百八十九萬兩餘ノ負擔ヲ減ジ、且ツ獨塊ニ對スル債務約六千萬元ヲ解除シテ支出ヲ輕減シ、加フルニ鹽稅ハ改革以來逐年收入增加シテ、年額八千數百萬元ニ及ビ、關稅モ亦タ新稅率實施ノ爲メ、年額八百萬兩ノ增收ヲ得、銀價ハ異常ノ暴騰ヲ告ゲ、外債ノ償還ニ極メテ

有利トナリ、貿易亦タ頻年出入略相均衡シ、當時ハ實ニ支那財政史上空前ノ天佑時代デアツタ。從テ國內ノ爭亂紛糾サヘナカツタナラバ、地方送金ガ杜絶シテモ、左迄苦痛ガナイノミナラズ、寧ロ時正ニ財政整理ノ絶好ノ機會デアツタニ拘ラズ、爲政者ハ毫モ茲ニ顧及スル所ナク、反テ益々倒行逆施ヲ态ニシ私黨ヲ營ミテ政争ニ没頭シ、爲メニ軍政兩費ハ妄リニ増加シ、一般支出復タ昔日ノ比デハナク、益々財政ヲ紊ルニ至ツタノハ、寔ニ是非モナキ次第デアル。外國ヨリノ政治借款ハ、一九一八年ノ二月在北京五國公使會議ノ上、支那ノ國內ノ統一ヲ見ル迄ハ、相互ニ相戒メテ有ラユル政治借款ニ應ゼザル可キヲ申合セテ以來、一九二〇年ニ一時的應急政費トシテ五百萬磅、北支那饑饉救濟費トシテ四百萬元ヲ借入レタ外、一九二〇年十月ニ米國ノ提議ニ基イテ成立シタ新借款團ヲ支那ガ認メナイン、各國モ又借款ハ反テ支那ノ紛争ヲ助成セシムルニ過ギザルヲ實見シタ關係上之ニ應ゼザルヨリ、近年ノ支那財政ハ、纏カニ或ハ中國交通兩銀行ノ紙幣濫發或ハ一時的借入金若クハ短期内外債及國庫債券ノ濫舉等ニ依テ、其日ヲ彌縫苟安セルニ過ギザル狀態デアル。

清末以來ノ財政狀態ハ、叙上ノ如ク殆ド内外債ニ依テ支持セラレ來ツタモノデアル

ガ爲メ、今ヤ内外債ニシテ未償還ノモノ大約二十六億元(二億八九千萬磅)ニ上リ、此等元利ノ償還額ノミニテ既ニ毎年數億元ニ及ブニ至ツタ。勿論支那ノ借款ハ貨幣ノ種類ガ區々デアルト共ニ、從來財政ハ公開セラル、コトナク、隨テ借款ノ如キモ祕密ノ裡ニ成立セシモノガ少ナクナイカラ、嚴密ニ其總額ヲ計上スルコトハ難事タルヲ免レナイノデ、從來公ニセラレタ各方面ノ調査ナルモノモ其間少ナカラヌ徑庭ヲ有シテ居ル。現ニ財政部及交通部ノ發表セシ數字ノ如キモ必ズシモ精確ナルモノト云フヲ得ナイガ、左ノ額ヲ示シテ居ル。

財政部關係

擔保確實ナル外債:	九九、六四、五五・四元
擔保不確實及無擔保外債:	三〇、九三、二五・八
滿期後償還セザル獨乙外債:	二、二三、〇六・七五
同 上 計:	三四、二三〇、五六、二六
合 計:	一、二四九、九七、四〇〇・二四
擔保確實ナル内債:	三〇四、四〇九、五九二・〇〇

擔保不確實及無擔保內債 三、四〇〇、〇〇〇・〇〇

各機關經費トシテ發給セル國庫券 三、六七、五八・六

各銀行商店ノ短期借款 四〇、八九〇、一五・七

九六公債償還ノ殘額 三、五〇三、九四〇・四

合計 四六、九七一、三〇九・八〇

内外債合計 一、六六、九四八、七一〇・四

交通部關係

長期鐵路外債 一九四、六〇八、九四・八三

短期鐵路外債 一七九、九一八、五二・三〇

電政外債 四〇、七四二、五九六・二六

合計 五五、二六九、一〇二・三九

各銀行短期債款 一二、五七九、〇四二・七

各銀行貸越金 七〇六、九八〇・三

內國公債 一六、一七一、五〇・〇〇

贖路內債 三九〇〇八、〇〇〇・六八

支付券 一一、三一〇、〇〇〇・〇〇

合計 七九、八〇七、吾三・九八

内外債合計 九五、〇八七、壹六・三七

支那内外債總計 二、二二、〇六、三四六・四

上表中財政部關係ハ十一年九月末、交通部關係ハ同十二月末ノ現狀ヲ示シタモノノデ、當時已ニ内外債總額二十二億八千二百萬元ニ上レルガ、爾後本統計ノ少額ニ失スルコトガ各方面ヨリ指摘セラル、ニ至ツタト共ニ、如上ノ負債モ擔保ノ特ニ確實ナルモノ、外、何レモ元利ノ支拂ガ今ニ停頓セル有様デアルカラ、十三年末ニ於ケル内外債ノ總額ハ恐ラク二十六七億元ニモ達スルデアラウ。

第三 歳出入ノ現狀

凡ソ支那政府ノ歲入ガ幾干ニ上ルカハ、世人ノ齊シク知ラント欲スル所デアルガ、全

國ノ歲入ハ勿論中央政府ノ年々ノ收入スラ、後ニ叙ブル其財政組織上ノ缺陷ニ基ク事由カラ、絕對ニ之ヲ審ニスルヲ得ナイ。併シ其財源ハ比較的單純デアツテ、主トシテ租稅ニ依レルハ勿論、而カモ其種類ノ如キモ、唐宋時代ヨリ近年ニ至ルマデ、田賦、關稅、鹽稅及雜稅ノ四者ヲ主タルモノトシ、唯ダ清朝以來臨時稅トシテ興シタ厘金稅即チ今日ノ貨物稅ヲ之ニ加ヘタニ過ギナイ。蓋シ支那ニ在テハ由來法制ノ變革ハ、王朝ノ更迭ヨリモ難シトセラレ、殊ニ賦稅ノ釐革ニ至ツテハ、租稅ノ輕重ヲ以テ政治ノ善惡ヲトスル國民ノ傳統的習性上、一大難事デアツテ、稅制ノ根據ハ古今殆ド一貫シテ變易スルコトガナク、歷朝命ヲ革ムルモ稅制ハ舊ニ依テ異ナルナキヲ特色トスルノデアル。從テ後世國家經費ノ漸次增加スルニ伴ツテ、或ハ臨時稅ヲ興シ、或ハ附加稅手數料ヲ設ケテ、纔ニ急需ニ應ジタモノデアル。而シテ此等ノ租稅ハ後ニ述ブル如ク凡テ國家ノ收入トシテ地方政府ノ徵收ニ委セラレ、一定額ノミガ中央ニ輸セラレ、殘余ハ地方經費ニ充當セラル、モノデアルカラ、中央ノ財政ハ、謂ハゞ地方ヨリノ送銀額如何ニ由ツテ決定セラル、モノト言フ可キデアル。而ルニ輓近關稅並ニ鹽稅ニ於テ、支那政府ガ自由ニ之ヲ收支スルヲ得ナイコト、ナツタニ加ヘ、地方送銀ノ杜絕ニ備ヘントノ趣旨ヨリ、政府

ハ民國四年以來新ニ中央專款ナル直接收入ノ項目ヲ創設シタカラ、爰ニ多少舊來ノ賦稅徵收ノ方式ニ變革ヲ來タスニ至ツタ。併シ其代リニ革命後國內ノ不統一ハ、遂ニ地方財政ノ獨立ヲ激成セシメ、先づ國內收入ノ太宗ト稱セラレ來ツタ地租ハ、全國ノ收入ガ少ナクモ八九千萬元ニ上ルトノコトデアルガ、歷年各省ニ截留セラレテ、今ヤ全ク地方稅タルノ觀アルニ至リ、貨物稅ノ如キモ四千萬元内外ノ收入ト稱セラル、ガ、北京附近ニテ徵收セラル、モノヲ除クノ外ハ、何レモ地方政費ニ充用セラレ、其他各種ノ雜稅ニシテモ二三千萬元ノ收入ニ上ルデアラウガ、同ジク中央ノ收入トナルモノハ殆ド言フニ足ラナ、イ狀勢デアツテ、舊來ノ地方ノ徵收ニ委ネラレタ歲入ハ、今ヤ殆ド國稅タルノ性質ヲ有セザルニ至ツタノデアル。即チ固ト此種ノ賦稅ガ地方ヨリノ送銀ト成ツテ中央財政ノ一半ヲ支持シタモノデアルニ拘ラズ、革命以來全ク杜絕シ、一時袁氏ノ專制時代ニハ多少復活シタガ、爾後更ニ年ト共ニ激減スルニ至ツタモノデ、現ニ民國四年度ノ一千九百一萬三千二百二十五元ヲ最高記錄トシテ、五年度一千八百九十萬元余、六年度九百八十余萬元、七年度ニハ六百余萬元ニ遞減シ、遂ニ十年度ニハ三百四十余萬元トナルニ至ツタ。其外尙官業收入ナルモノガアルガ、元來國庫收入トシテ殆ド記スニ

足ラヌ少額デアリ、更ニ中央各部ノ收入トシテ、例ヘバ司法部ノ訴訟費、農商部ノ登録費、教育部ノ學費及財政部ノ造幣余利等アルガ、是亦タ其額大ナラザルト共ニ、各部ニ於テ自由ニ收入支出セルガ爲メニ、何等國庫ニ寄與スル所ガナイ。

於是乎政府ノ重要收入ハ、勢ヒ關鹽兩稅ト中央專款トニ恃賴セザルヲ得ナイノデアル。而ルニ中央專款ハ創設日尙淺ク未ダ實蹟ヲ舉グルニ至ラナイ爲メニ、其稅目ハ九種ノ多キニ及ブモ(印花稅、烟酒公賣費、烟酒稅、關稅、屠宰稅、牲稅)、稍重キヲ爲シ囑望セラル、ハ、印花稅(印紙稅)ト烟酒公賣費(一種ノ烟酒專賣制)ノニ過ギナイ。加之此等ノ租稅モ近年ノ如クニ中央ノ威力ノ全國ニ普及セナイ國情ノ下ニ在テハ、實際上中央ノ收入トナルハ極メテ少額デアツテ、現ニ最近ノ全國收入額ハ、烟酒公賣費ニ於テ一千五百萬元ニ上ルモ、中央ノ實收ハ僅ニ十年度百七十八萬元余、十一年度百四十余萬元デアツテ、殊ニ印花稅ノ如キニ至テハ、最近ノ收入報告ニ依レバ三百二十八萬元余ニ及ブニ拘ラズ、毎年ノ財政部送付額ハ三十余萬元ニ過ギナイ。唯ダ關鹽兩稅ノミハ、外人監理ノ下ニ在ルガ爲メニ、年々良績ヲ示シ、關稅ノ如キハ毎年ノ自然增收二百七十余萬元ニ上リ、開港地ヲ距ル五十里外ノ常關收入(約六百七十萬元ノミハ、各省ニ流用セラレテ中央ノ收入トナラナ

イガ、五十里内ノ常關稅及海關稅收入ハ、數ノ如ク實收セラレ、今ヤ其額九千五百萬元内外ニ達シ、鹽稅セ亦タ總收入額毎年九千萬元ヲ超ユル勢デアル。然レドモ此等ノ兩稅ハ、何レモ外債ノ擔保トナリ、支出上債權國ノ監理ヲ受クルガ爲メニ、政府ハ全部ヲ自由ニスルヲ得ナイト共ニ、今ヤ漸次其自由使用額ガ窘窮セル狀態デアル。即チ關稅ニ在ツテハ、毎年海關ノ經費約六百萬元内外ト同稅ヲ擔保トセル外債ノ元利約五千八百萬元トヲ控除セラル、ガ爲メニ、政府ノ實收トナル所謂關稅剩余金ナルモノハ、如何ニ多クモ三千五百萬元以上ヲ望ムコトハ容易デナイ。而カモ此剩余金ハ近年內債ノ整理ニ充用セラル、コト、ナリ、之ニ依テ支拂ハル可キ公債元利ガ、差當リ年額四千六百萬元ニ及ブカラ、結局却テ一千萬元以上ノ不足ヲ示スノ有様デアル。次テ鹽稅ニ付テ觀ルニ、總收入ハ常ニ九千萬元ヲ超ユルモ、地方經費ニ流用セラレ又ハ軍閥ニ抑留セラルモノガ少ナクナイ爲メニ、外債元利約二千萬元ヲ初メ徵收經費並ニ翌年繰越額等ヲ控除セラル、ニ於テハ、所謂鹽稅剩余金ナルモノハ多クモ三千四五百萬元ニ上ルニ過ぎナ。而ルニ政府ハ外債杜絕以來、本剩余金ヲ擔保トシテ短期借款ヲ濫興セシガ爲メニ、此等ノ元利支拂ニ充當スルニ於テハ、今ヤ余ス所ハ殆ト言フニ足ラナイ。斯ノ如

クニシテ一時政府ノ主トシテ恃賴シタ鹽稅關稅兩余款モ、上記ノ如ク内外債ノ整理債還ニ充用スルニ於テハ、今ヤ殆ド望ヲ囁スルヲ得ザルニ至ツタ。從テ現時政府ノ最モ確實ナル收入トナレルハ、北京附近ニテ徵收スル貨物稅其他デアツテ、京師稅務ナル收入ガ即チ是レデ、毎年經費ヲ除キ其額二百三十萬元ニ及ブト稱セラレル。

叙上ノ計算ハ各種ノ資料ニ基キ立論シタモノデアルガ、財政整理會長顏惠慶氏ノ大總統ヘノ呈文ニ於テモ、政府ノ近年ニ於ケル確實ナル實收ハ七百萬元ニ過ギナイニ拘ラズ、支出ハ行政費五千八百萬元軍政費七千萬元計一億二千八百萬元ヲ要スト述ベテ居ル。兎ニ角以テ國庫ノ窮乏察知ス可キデアル。支那財政ノ現狀斯ノ如クデアルカラ、鹽關稅ヲ擔保トセル外債ハ、債權銀行團自カラ其收入ヲ管理シテ數ノ如ク元利ヲ控除シ、辨濟ヲ受ケ居ルモ、其他ノ外債ニ至テハ近年元利ノ償還全ク停頓シ、内債ノ如キモ特ニ總稅務司ノ管理ノ下ニ於テ償還セラレツ、アルモノ、外ハ、多ク未濟ノ狀態デアツテ、叙上ノ關鹽余款モ數ノ如クニ之ニ充用セラル、コトナク、今ヤ此種内外債ノ額ハ累積シテ財政部干係ノミニテ六億元ニ達セントスル勢デアル。加之交通部ニ屬スルモノモ、同部編纂ノ整理債務計畫ニ依レバ、負擔スル力ナキ額十一年末ニ於テ一億八千

七百萬元ニ上ルトノコトデアルカラ、利子ヲ積算セバ是亦今ヤ二億元ヲ超ユル狀勢デアル。サレバ勢ヒ政費ノ支拂ノ如キモ兎角延滯勝チデアツテ、現ニ十一年九月末ニ於ケル延滯額ナリト稱スルモノニ付テ觀ルニ、軍警費一億三千四百萬元、行政費六千三百八十萬元ヲ算スル。事實如上ノ窮狀ニ在テハ官吏ノ俸給スラ支給スルヲ得ザルニ至ルハ當然ノ歸趨タルヲ失ハナイ。而シテ斯ノ如クニシテ國家收入ノ大半ガ地方費ニ充用セラレ、中央ノ財源枯渴セルモ、地方ハ又民國以來鹽稅ノ巨收ヲ失ツタニ加ヘ、軍費ノ支出ハ年ト共ニ増加セシ爲メ、何レノ地方ニ於テモ著シク政費不足シ、之ガ爲各省公債若クハ金庫券ノ發行、紙幣ノ濫發、銅貨ノ濫鑄、官有財產ノ賣却、民間ヨリノ借款、稅金ノ前徵收等ニ依リ、纔ニ彌縫補救セル現情デアル。從テ地方治績ノ毫モ舉ラザルハ勿論ナルノミナラズ、政府ノ財政獨リ窮乏セルモ、國民ノ負擔ニハ何等ノ變更ナク、依然トシテ小吏ノ苛征誅求ニ苦シムト共ニ、軍閥ノ跋扈ニヨリ其生活ハ多大ノ脅威ヲ受ケツ、アルノ有様デアル。此ノ如ク中央地方ノ財政何レモ窘枯渴セルモ、外債ハ國內不統一ノ爲メニ容易ニ成立セズ、内債ノ途亦タ既ニ窮シテ其望ナク、民國以來借款ニ由テ綑繆シ來ツタ傳統的財政策モ最早施スニ由ナキニ至ツタカラ、倘シ此儘ニ放任センカ、益

々政治ノ基本ヲ確立シ回運ノ策ヲ廻ラスヲ得ナイノミナラズ、遂ニハ破産ノ悲運ニ陥ルカ、若クハ列國ノ國際管理ニ附セラル、ノ外ナキニ至ル惧ナシトセナイ。

第四 財政組織

一 財政機關及系統

支那財政ノ紊亂セルコト實ニ言語ニ絶シ、之ガ根本的大革新ヲ爲サルニ於テハ、支那ノ前途寢ニ寒心ニ堪ヘザルハ、上來叙ブル所ノ如クデアル。而シテ之ガ根本的大改革ヲ遂ゲンガ爲メニハ、勢ヒ其財政組織ヲ一新シテ從來ノ弊政ヲ釐革シ、財政方針ヲ變更シテ收支ヲ適合セシムルノ外、他ニ適策ガアル可クモナイ。

凡ソ民國ノ財政組織ハ、大體ニ於テ清朝ノ制度ヲ踏襲シタモノニアツテ、中央ニハ財政部ナル財務最高機關ガアツテ、全國ノ財政ヲ總管シ、地方各省ニハ財政廳ヲ置イテ、中央政府ノ派遣官タル財政廳長ヲシテ、省内ノ財政ヲ管掌セシムルノ組織デアル。然シ

ナガラ元來支那ノ政治ハ、政府ナルモノハ名ハ中央政府デアツテモ、實ハ單ニ政府所在地々方ノ政治ヲ行フノミデアツテ、未ダ中央集權ノ完全ニ行ハレタ事ガナイノデアルカラ、勢ヒ財政ノ如キモ中央政府ハ唯政府所在地ノ財政ヲ管掌スルニ止マツテ、各省ノ財政ハ夫々地方政府自ラ之ヲ掌ルモノデ、中央ハ單ニ之ヲ監督スルニ過ギナイノデアル。蓋シ是レ畢竟極端ナル地方分權制ヲ採用セシ結果ノ致ス所デアツテ、封建時代ハ勿論、既ニ郡縣制度ヲ採用シタ秦漢以後ニ於テモ、地方分權制ニハ殆ド實際上變化ガナカツタモノデアル。過去ニ於ケル數千年來ノ行政組織ガ既ニ斯ノ如キ實情デアツタノデアルカラ、今日ノ如キ中央ノ威令ノ地方ニ及バナイトキニ於テハ、地方財政ノ全然獨立セルハ、元ヨリ其所タルヲ失ハナイ。勿論清朝時代ニハ地方ノ財政權ハ全然總督巡撫ノ掌中ニ歸シ、而カモ督撫ト中央ノ度支部(當時ノ財政部)トハ何等ノ統屬干係ナク、從テ其間統整ヲ缺クコト甚シカツタカラ、革命後ハ全國各縣ノ徵稅ヲ財政分廳ニ掌ラシメ、各分廳ヲ一省ノ財政廳ニ總轄シ、以テ中央財政部ハ全國ノ財政廳ヲ統一セントノ策ヲ立テタ次第アツタガ、結局一般ノ行財長官タル各省ノ省長若クハ軍務長官タル督軍ニ一省ノ財政徵稅上ノ全權ヲ委ネ、各縣ノ行政長官タル知事ニ徵稅ヲ兼ネシメナ

クテハ到底財務行政ヲ實行スルコトガ出來ナイ爲メニ、畢竟財政廳長及分廳長ハ空位ヲ擁シ、遂ニ各省ノ財政ハ舊ノ如ク獨立シ、中央ハ殆ド與カルコトナキノ狀ヲ致スニ至ツタモノデアル。加之中央ノ財政ハ、財政部ガ之ヲ管掌スルヲ原則トセルニ拘ラズ、而カモ財政部以外ニ尙關稅ニ付テハ稅務處、鹽稅ニ付テハ鹽務署ナル特設財務官廳ガアツテ、特殊ノ財務ヲ專管スルノミナラズ、中央ニ於ケル各部ノ如キモ、其歲出入ノ一部ハ財政部ノ手ヲ經由スルモ、中ニハ自ラ收入支出スルモノモ少ナクナイノデ、隨テ財政部ハ中央ノ財政スラ之ヲ統一スルコトガ出來ナイ狀態ニ在ルノデアル。而シテ地方財政ノ如キモ、上述ノ如ク法文上ニ於テハ中央ノ任命セル財政廳長ガ省長ノ監督ノ下ニ之ヲ管掌スルヲ原則トセルモ、別ニ武官タル督軍ナルモノガアツテ、而カモ督軍ハ各々手兵ヲ擁シテ地方統治ノ實權ヲ占握セルト共ニ、其地位ガ廳長ハ勿論省長ノ上ニモ在ルガ爲メニ、勢ヒ多クノ場合ニ於テ省内ノ財政ハ督軍ニ左右セラル、コト、ナルノミナラズ、鹽稅關稅ノ如キ夫々別ニ之ヲ管スルノ專司ガアツテ、全然廳長ハ勿論省長ノ容啄ヲモ許サナイカラ、地方財政モ亦タ何等統一セラル、コトガナイ。斯ノ如クデアルカラ、財政部ハ官制上ニ於テハ、會計出納租稅公債泉幣專賣儲金銀行及其他一切ノ財政ヲ審ニスルヲ得ナイ地位ニ在ルノデアル。

ヲ管轄シ、並ニ地方公共團體ノ財政ヲ監督スルモノデアルト爲セルヲ以テ、凡ソ國家ノ財政ニ關シテハ其職權ノ及バザル所ナキ筈デアルガ、實際ニ於テハ單ニ地方ヨリ中央ニ輸セラル、賦稅ヲ納メテ、之ヲ中央ノ諸經費ニ充ツルノ職務ヲ爲スニ過ギナイノデ、中央諸官廳ノ收入ヲ全部收メテ管理スルコトモ出來ズ、殊ニ地方ニ對シテハ省長及督軍トノ間ニ何等ノ統屬關係ナキ爲メ、地方財政ノ監督モ畢竟具文ニ止マルノミデ、隨テ財政部ハ全國財政ノ最高機關デアリナガラ、國家ノ收入支出ガ幾干ニ上ルヤラスラ之ヲ審ニスルヲ得ナイ地位ニ在ルノデアル。

中央政府ノ財政ノ不統一ナルコト以上叙ブル如クデアルガ、地方ニ在テモ官制上ニ於テハ、財政廳長ハ省内ニ於ケル租稅ノ賦課徵收、金穀ノ保管出納等一切ノ財務ヲ管掌スルモノデアルガ、其實省長及督軍ノ勢力地位大ナルヨリ、單ニ名義上ノ財務長官タルニ止マツテ、唯其事務ハ管内ヨリ送ラル、賦稅ノ一部ヲ中央ニ輸シ、其餘ヲ藩庫ニ納メ、以テ省内ノ行政費ニ充ツルニ過ギナイ。而シテ以上ノ各官ハ何レモ中央ノ派遣官デアツテ、其間何等直接ノ統屬關係ヲ有セザルヲ特色トル。而シテ又鹽稅關稅ノ如キハ、更ニ別ニ特設ノ財務官廳ガアツテ、其收入ヲ直接中央ニ輸シ省長督軍ノ關與ヲモ許

サマルハ上ニ述べタ如クデアル。地方財務機關トシテ寧ロ重要ナルハ縣知事デアル。知事ハ支那幾多ノ官吏中獨リ人民ニ直接シ化育ニ當ルモノデ、即チ其他ノ官吏ハ凡テ所謂官ヲ管スル官デアルガ、知事ハ民ヲ管スル官デアツテ、支那政治組織ノ單位、官僚制度ノ骨髓タル可キモノデアル。從テ租稅ノ如キモ直接人民ヨリ徵收スルモノデアツテ、而カモ其收メタモノハ單ニ規定セラレタル所謂定額サヘ上司ニ送レバ足ルノデ、大部分ノ殘額ハ自由ニ之ヲ使用スルコトガ出來、而カモ徵稅期及銀錢ノ換算率等殆ンド知事ノ意ノマ、ニ決定セラル、モノデアルカラ、其權限ハ極メテ廣大デアル。從テ普通彼等ハ多數ノ吏員ヲ使用シテ、只管收入ノ多カラニコトニ力メ、而カモ上級官廳ニ納メネバナラヌ定額スラ、水旱其他種々ノ口實ヲ設ケテ減額スルコトガ多イノミナラズ、管内ノ行政費ニ對シテハ厘毛ノ支出モ之ヲ吝ミ、敢テ道路ヲ修メ橋梁ヲ架スルガ如キコトヲ爲サナイ。上級官廳モ、地方ガ教育土木警察等ニ關スル新政ヲ施シ、爲メニ送金額減少ノ口實ト爲スヲ惧レ、敢テ地方行政ノ治績ノ舉ラザルヲ責ムルコトガナイ。從テ知事ハ毎年上長ニハ形式的會計報告ヲ爲スノミデ、事務ハ殆ド書吏ニ委ネテ顧ミルコトガナイ。書吏ハ古來支那上下ノ官廳ニ附隨セル寄生虫ニアツテ、吏胥、胥吏、書辨或

ハ單ニ書又ハ吏ト稱シテ、少クモ一地方ニ二三百人ヲ下ラナイ。是レ蓋シ清朝時代ニハ地方官ハ其郷里ニ於テ任官スルヲ得ナイト共ニ、其任期ハ一地方ニ於テ永キモ三年ニ過ギナイカラ、勢ヒ土地ノ情況ニ通ジ諸務ニ熟達セル彼等書吏ニ事務ノ處理ヲ委ネザルヲ得ナカツタガ爲メデ、遂ニハ彼等ハ父祖代々相傳ヘテ以テ世業トナシ、地方的ニ一大勢力ヲ形成スルニ至ツタモノデアル。而ルニ元來彼等ハ官吏デナイカラ職務上ノ責任ハ凡テ主人ニ歸スルヨリ、虎威ヲ藉テ私慾ヲ擅ニシ人民ヲ苛征シテ止マナイ。支那財政ノ禍根實ニ爰ニ胚胎スト言ツテモ失當デハナイ。

斯ノ如ク財政機關並其系統ハ極メテ不統一デアルガ、是レ畢竟從來極端ナル地方分權制ヲ採用セシノ致ス所タルニ外ナラナイ。勿論上ニモ叙述タ如ク、支那ニハ未だ曾テ真ノ集權的國家ノ組織セラレタ事實ハ殆ト無イ様デアルガ、殊ニ清朝ガ北方ヨリ入ツテ支那ヲ統治スルニ當ツテ、彼ノ廣大ナル版圖ニ畫一的統治ヲ爲スコトノ困難ナルヨリ、明ノ遺制ニ倣ツテ地方官ノ權力ヲ增大セシガ爲メニ、自ツト一層極端ナル地方分權ヲ馴致スルニ至ツタモノデアル。元來支那ハ郡縣制ニ入ツタ秦漢以後ニ於テモ、其實ハ何等封建制ト擇ブ所ガナク、唯地方長官ガ中央ノ官吏タルノ點ニ於テ封建時代ト

異ナレルノミニ過ギナイノデアル。現時各省ノ督軍省長ガ、殆ド全權ヲ以テ其管内ノ政務ヲ行フノモ、要スルニ如上ノ制度ノ精神ヲ傳ヘタモノニ外ナラナイ。一タビ清朝ノ末年ニ財政統一ノ說出ヅルニ及ビ、如上ノ諸弊ヲ改メント欲シテ、光緒三十四年十二月ニ、政府ハ旨ヲ奉ジテ清理財政辦法ナルモノヲ議奏シテ、從來各官廳ガ擅ニ收支セシヲ改メテ、必ズ當時ノ財政部タリシ度支部ノ金庫ヲ經由セシムルコト、シ、更ニ度支部ノ權限ヲ擴張シテ、國庫ノ統一豫算決算ノ編成ヲ一任スルト共ニ、地方ニ對シテモ、省内財政ニ關スル事項ハ、隨時當時ノ財政廳長タル布政使ヨリ度支部ニ詳報シテ検査ヲ受ク可キコトニ改定シタケレドモ、歴史的原因ニ防碍セラレ、因襲ノ久シキ遽カニ各官廳ノ自籌ノ如キモ之ヲ禁遏スルコトガ出來ズ、叙上ノ弊害ノ如キ依然トシテ改ムルコトガナカツタ。從テ殊ニ近年ノ如ク中央ノ威令全ク失墜シ、地方督軍ノ手兵增加シ軍費ノ膨脹甚シク、上下ノ官紀頽廢スルニ於テハ、地方ノ貢賦殆ト杜絶シ、財政ノ窮乏紊亂甚シキニ至ルハ、元ヨリ當然ノ歸結ト言ハネバナラヌ。

二　會計制度

叙上ノ如ク支那ノ財政機關ニハ何等ノ統一脈絡ガ無イノミナラズ、凡ソ近世國家ノ歲出入ハ凡テ豫算ニ依ツテ定マルヲ法則トスルニ拘ラズ、從來支那ニハ財政學上ノ真正ナル意義ニ於ケル豫算ナルモノガ無イ。唯歲出入ニ關スル極メテ緻密ナル規定ガアツテ、之ニ從テ收入支出セラレ、政府ハ敢テ妄ニ國帑ヲ費ス可ラザルモノトセラル、ニ過ギナイ。即チ清朝以來ニ在ツテハ歲出入額及科目等ハ、凡テ大清會典ヲ以テ一定セラレ、變更スルコトノ出來ナイ定メデアツテ、從テ經費ノ如キモ各部各省ニ應ジ一々之ヲ固定シ、各部各省ハ該規定ニ從ツテ經費ヲ支辨セネバナラスモノトセラル、ノデアル。而カモ該規定ハ康熙乾隆ニ大成シテ、嘉慶年間ニ改訂セラレタモノデアルカラ、百餘年前ノ情況ニ應ジテ定メラレタモノデアルニ拘ラズ、國情ノ著シク變化シタ清朝末年ニ至ツテモ、尙之ニ遵ハネバナラナカツタモノデ、民國ニナツテカラハ、文明國ノ例ニ倣ツテ會計法ナルモノヲ立案シタケレドモ、未ダ實施セラル、ニ至ラナイカラ、依然大綱ハ前清ノ例ニ從ヒツ、アルモノト解スルノ外ナイ。從テ清朝時代ニ在ツテモ、時

勢ノ必要ニ應ジテ新ニ興ツタ政務ノ如キハ、規定ニ照シテハ全ク經費支辨ノ途ガナイノミナラズ、收入ノ如キモ大清會典ニ固定セラレタル經費ヲ支辨センガ爲メニ、一定ノ收入ヲ充當スルモノデアルカラ、經費ノ増加ニ伴ツテ收入增加セシムルコトガ出來ズ、從テ勢ヒ新ニ興ツタ政務ニ要スル經費ヲ支辨センガ爲メニハ、各地方ヨリ特ニ新ニ一定額ヲ納付セシムルノ外ナク、其結果收入ト經費トハ凡テ各獨立シ、恰モ特別會計タルガ如キ觀ヲ呈スルノデアル。即チ中央ニ於テ新ニ經費ヲ要スル場合ニハ、之ヲ各省ニ分擔セシムルモノデアツテ、之ヲ派定ト云ヒ、各省ノ之ニ對スル承諾ヲ認籌ト稱スル。若シ該省ニ於テ其派定額ヲ出スコトガ出來ナイノデアル。而シテ認籌額ト言ヘドモ容易ニ接濟スルコトガナク、中央ヨリノ數回ノ督促ニ由ツテ初メテ支出スルヲ從來ノ實情トスルノデアル。斯ノ如ク政府ノ收入支出ガ一一定セルト共ニ、極端ナル地方分權制ヲ採用シタカラ、各省ノ經費ハ專ラ各省ヲシテ自辨セシムルヲ原則トシ、假令經濟ガ貧弱デアツテ省庫ノ收入ガ少ナク、以テ經費ヲ支辨スルコトノ出來ナイ地方ガアツテモ、中央ハ之ニ對シテ何等ノ補助ヲモ爲スコトノナキヲ例トスル。唯斯ル場合ニハ、財源ノ

豊富ナル地方ヲシテ若干ノ銀兩ヲ送付セシメ以テ其經費ノ不足ヲ補救セシムルノデアツテ、之ヲ協餉ノ制ト稱スル。斯ノ如キハ是レ蓋シ從來ノ制度ニ在ツテハ、國家收入ト地方收入、國家經費ト地方經費トヲ區別セズ、地方政府ノ徵收シタル租稅其他ハ、均シク國家ノ收入デアツテ、中央及地方經費ハ凡テ之ニ依ツテ支辨セラレ、各省政府ノ地方經費ヲ支辨スルノモ、畢竟國家ノ經費トシテ之ヲ支辨スルモノデアツテ、唯該地方ニ配當シタル國家經費ニ外ナラナイト爲シ來ツタ趣旨ニ出ヅルモノデアル。

凡ソ中央ノ收入ハ凡テ之ヲ各省ニ仰グモノデアツテ、地方ヨリ中央ニ輸送スルモノニハ、從來米穀ト銀兩トアツテ、米穀ヲ以テスルヲ漕米ト云ヒ、銀兩ヲ以テスルヲ餉銀ト稱シタガ、民國以來米穀ハ之ヲ銀元ニ代ヘテ納ムルコト、ナリ、漕米ノ制ハ之ヲ全廢スルニ至ツタ。清末光緒以後軍國多事ニシテ經費ノ遽ニ膨脹シ到底斯ル固定的豫算ヲツタモノデアツテ、從テ形式上豫算ナルモノガ全然ナイデハナカツタケレドモ、實際上ハ全ク豫算ナキト毫モ異ナルコトナクシテ、表面ノ形式ハ以上ノ成典ニ依ツテモ、實際ハ全ク時ニ應ジ宜シキニ從ツテ收支ヲ爲シタモノデアル。而シテ中央ノ收入ハ一二

地方ノ送銀ニアルカラ、其期ヲ愆ラザラシメンガ爲ニ、精細ナル規定ヲ設ケ、又官吏ノ不法行爲ヲ豫防スルニ力メ、之ニ關スル種々ナル賞罰規定ヲモ設ケ、特ニ意ヲ用ヰタケレドモ、地方ハ天災其他ニ名ヲ藉ツテ、自己ノ負擔セル定額スラ容易ニ解送セナカツタカラ、清朝時代ノ如キ之ガ爲メニ上諭ヲ發シタコトガ一再ニ止マラナカツタ。革命後ニ於テモ制度ノ根本ガ改變セラル、コトナク、殊ニ事變以來地方ノ送銀ガ激減シタカラ、民國四年五月改メテ解欵考成條例ナルモノヲ發布シ、之ガ獎勵ヲ爲スコト、シタガ、殆ト效果ヲ見ルヲ得ナカツタ。而シテ政府ノ收入ハ一定ノ庫ニ保管シ、規程ニ從ツテ支出ス可キ定メデアルガ、從來金庫制度ハ支離滅裂デアツテ、支拂命令官ト出納官吏トハ往々混同シ、金庫ト銀行トハ連絡ノナイコトハナイガ、官廳ニ依ツテ出納ヲ司ラシムル銀行ヲ異ニスルノ有様デアツテ、革命後金庫ノ統一ハ財政整理ノ根本ナリトシテ、之ガ統一ヲ圖ラントシタガ、鹽關稅ノ全然獨立セルハ勿論、中央ニハ中國交通兩銀行併立シ、地方ニ於テモ或ハ中國銀行若クハ交通銀行ノ官金ヲ取扱フアリ、或ハ今尙官錢局又ハ省銀行ノ管掌スルアリ、或ハ又官署ニ附設スルモノナドアツテ、紊亂ノ情依然トシテ從來ト異ナルナキ狀態デアル。

支那ノ財政制度ニ於テハ、叙上ノ如ク近世國家ニ於ケルガ如キ豫算ガナイカラ、從テ又決算ナルモノ、存在スル道理ガナイ。然レドモ財務官廳トシテ中央ニ財政部ナルモノガアツテ、地方官府タル財政廳ガ之ニ從屬スルカラ、地方ヨリ毎年中央ニ決算ヲ報告スベキモノトシ、清朝時代ニ在ツテモ、地方長官ハ毎年奏鎖冊ト稱シテ財政決算書ヲ上奏スルヲ例トシタ。即チ州縣官ハ其管内ノ租稅ヲ徵收シタキハ、其一部分ヲ以テ州縣ノ經費ニ充當シ、尙一部分ハ定例ニ依ツテ之ヲ儲存シ、殘額ハ總テ決算ノ上之ヲ省政府ニ輸スルト同時ニ、且其決算ヲ報告シ、之ヲ銷算ト稱シ、省政府ハ又省内縣官ヨリ送附シ來ツタ報告書ヲ集メテ、省政府ノ收支ニ關スル決算書ヲ作成シ、中央ニ報告ス可キモノトシテ來タノデアル。而シテ中央モ亦タ時トシテ各省ニ命ジテ管下各縣ノ徵稅狀況ヲ報告セシメ、之ヲ編纂シテ賦役全書ナルモノヲ作製シ、奏鎖冊ヲ統合シタモノヲノデアル。然レドモ元來中央及地方ノ歲出入ハ、上ニモ叙ベタ如ク成典ニ依ツテ一定シ、表面ハ一定額ノ歲入ニ照シテ一定額ノ歲出ヲ制スルモノデアルカラ、縣ハ一定ノ貢賦ヲ省ニ輸セバ足リ、省モ亦タ一定ノ貢賦ヲ中央ニ輸セバ足ルモノデアツテ、一種ノ請

負制度トモ稱ス可キモノデアルカラ、中央政府ハ地方ノ財賦ヲ貢献セシメテ中央ノ收支ヲ行フニ止マツテ、地方ノ實際收支ヲ計算シ得可キモノデナク、地方官モ亦タ收支ノ實際ヲ示シテ、若餘剩ガアツタナラバ、直ニ中央ヨリ定額ノ増加ヲ命ゼラレ、其結果一ハ自己ノ收入ヲ減ジ、然ラザレバ地方民ヨリ怨嗟ノ聲ヲ聽カザルヲ得ザルニ至ル可キヲ以テ、收支ノ實際ヲ明カニスルコトガナク、單ニ前代繼承ノ會計表ニ準據シテ、多少ノ修改ヲ施シ、形式的ニ報告書ヲ作成シテ、上司ニ送ルニ至ルハ、是レ當然ノ歸趨タルヲ免レナイ。尙加フルニ中央地方相互ノ官廳間ニ統屬關係ノナキヲ古來ヨリノ特徵トシ、其關係ガ密接デナク、中央官吏ハ殆ド地方ノ實情ニ通曉セナイカラ、地方ヨリノ奏鑑ハ稽覈ト稱シテ之ヲ檢閱スルノ制度デアルケレドモ、縱令報冊ニ虛偽ノ記述ガアツテモ、之ヲ摘發スルコトガ出來ズ、勢ヒ報告ハ形式的無意義ノモノトナラザルヲ得ナイノデアル。從テ從來政府ノ歲出入トシテ發表セラレタモノモ、畢竟各地方ノ中央ニ對スル貢納定額ト、尙留支定額ト稱シテ地方ニ留メテ使用シ得可キ額トヲ合計シタモノデアル、全ク因襲的ニ虛偽ノ數字ヲ彙算セシモノニ過ギナイノデアル。サレバ或ル租稅收入ガ若干ト稱シテモ、其金額ガ中央ノ收入トナルモノデナイコトハ勿論、又必ズシモ全

國ノ徵稅實額ヲ指示スルモノデモナイノデアル。實情斯ノ如クデアルカラ、從來發表セラレタ民國五年若クハ八年度豫算等ト稱セラル、モノデモ、要スルニ從來ノ如上ノ形式的報告ニ、更ニ多少推定上ノ增減ヲ施シタル架空的ノ數字ヲ羅列シタモノニ過ギナイノデアル。

斯ノ如クデアルカラ、中央ハ定額ト稱シテ地方ニ對シ毎年貢納スペキ額ヲ規定シテ居ルガ、中央ニ威アリ地方ニ災害ノナキトキニハ、此等ノ定額ハ缺クル所ナク中央ノ收入トナルノデアルケレドモ、若シ清朝末年以來ノ如クニ、中央ノ威令ガ地ニ墜ツルニ至テハ、如上ノ定額ハ愚カ、地方ノ送金ハ漸次減少スルコト、ナルノデアル。而カモ其結果タルヤ人民ノ負擔ニハ何等ノ影響ハナイノデアツテ、縱シ毎年ノ定額ガ缺クルナク中央ニ送ラル、場合デモ、直接人民ヨリ租稅ヲ徵收スル下級官吏ニシテモ、一定額ヲ請負フモノデアルカラ、此等ノ小吏ハ勢ヲ恃ンデ種々ノ手段ヲ以テ人民ヨリ可及的餘分ノ徵收ヲ爲シ、一個ノ利ヲ圖ランコトニ力メ、獨リ人民ハ比較的重キ負擔ヲ課セラレテ困窮スルコトガアツテモ、政府ノ收入ハ依然トシテ從來ノ定額ヲ超ユルコトガナイノデアル。斯ル情態デアルカラ、近年ノ鹽關稅ノ如キ特別ノ機關ニ依テ管理セラレ、直接

中央ノ收入トナルモノハ格別デアルガ、概シテ支那ノ財政ハ、地方ヨリ中央ヘノ送銀額如何ニ由ツテ決定セラル、モノト言フ可キデアル。勿論清朝時代ニハ都察院ナルモノガアツテ、中央地方各官衙ノ財政ヲ監督シ、今ハ審計院ナルモノガアツテ、大總統ニ直隸シ、國家歲出入ノ決算ヲ審定シ、若シ各官署職官ノ出納事項ニ於テ、法令ニ違背シ或ハ不正ノ情事アルヲ發見シタル場合ニハ、直ニ大總統ニ呈報ス可キ責任ヲ有スルモノデアルケレドモ、概ネ空法空文デアツテ所謂威儀三千ニ異ラナイ。

曾テ清朝ノ末年ニ、中央ハ地方存留ヲ制限シテ、以テ自己ノ收入ヲ増サンコトニ力メタガ、地方ハ種々ノ名目ヲ立て、容易ニ留支額ヲ減少スルヲ肯ゼズ、殊ニ彼ノ髮賊ノ亂以後、始メテ生ジタル地方軍費ナルモノハ、其後漸次多キヲ加ヘ、且ツ地方ニ天災騒亂等ガアレバ、常ニ該地方ヲシテ送金ヲ輕減セシメネバナラズ、爲メニ定額ノ收入モ年次缺クル所大ナルニ至ツタカラ、前ニモ叙ベタ如ク、光緒三十四年中央ハ清理財政處ナルモノヲ設ケテ、度支部尙書之ヲ直轄シ、地方ニハ各清理財政局ヲ置キ、數千年來因襲ノ會計法ヲ棄テ、新ニ實際ノ收支ヲ計算スペキヲ命ジ、中央ヨリ監理官ヲ特派シテ之ヲ監視セシムルコト、シタルモ、多年ノ因襲ハ遽カニ改メ難ク、當時蒐メ得タル報告ノ如キモ、

結局形式的數字ノ羅列ニ過ギナカツタノデアル。

第五 財政ノ整理ト廢督裁兵

支那ノ財政組織ノ紛糾錯雜セルニ加ヘ、財政方針ノ不徹底亂雜極マルハ、上來述ブル如クデアルガ、是レハ一ハ歴史的事由ニ原因スルト共ニ、一ハ支那ノ國情ノ然ラシムル所デアルトハ言ヘ、斯クテハ財政ノ紊亂拾收シ難キニ至ルハ當然ノ歸結タルヲ失ハナイ。勿論尙支那ノ財政窘窮ノ根本原因トシテ、其經濟ノ幼稚ニシテ不振ナルコト、政界ノ腐敗甚シク殆ド言語ニ絶セルコトヲ舉ゲナクテハナラヌガ、今日ノ財政情態デハ延イテ經濟ノ振興ヲモ妨げ之ガ發展ヲ策スルニ由ナク、又彼ノ財政組織並ニ方針ノ下ニ在テハ、政界ノ腐敗ヲ助長スルハ免レ難キ所デアル。從テ一面ニ於テ當面ノ窮迫セル財政狀態ノ改善ヲ圖ルト同時ニ、他面其組織ノ根本ニ向ツテ革新ノ斧鉞ヲ容ル、コトガ刻下ノ要務デアル。而シテ當面ノ改善ハ即チ債務ノ整理デアル。上ニ叙ベタ如ク無擔保若クハ擔保ノ不確實ナル内外債ガ今ヤ七億元ニモ上リ、而カモ之ガ元利ノ支拂

ガ數年來全ク停頓セルヨリ、年ト共ニ利子ノ累積ヲ見ツ、アルト共ニ之ガ爲メニ絶エズ國際間ニ議論ノ種子ヲ提供シツ、アルカラ、之ガ整理ハ先ヅ焦眉ノ急務タルヲ失ハナイ。

凡ソ支那政府ガ、破産ニ瀕セントセル財政上ノ危機ヲ救濟センガ爲メニ不備ナガラモ具體的ニ財政整理ノ計畫ヲ立ツルニ至ツタノハ、民國十年一月以來ノコトデアル。即チ外債ノ途ヲ梗塞セラレタ政府ガ無暗ニ内債ヲ濫興シ、遂ニ其整理ニ迫ラレテ着手シタルモノデアツテ、同年四月ヨリ關鹽兩稅剩餘金、烟酒公賣稅及交通部收入ヨリ年額二千四百萬元ヲ支出シテ、之ヲ特別會計ニ移シ内債整理基金ニ充當シタノガ濫觴デアル。之ニ依テ漸ク内債ノ整理ノミハ其緒ニ就カントシタガ、其後政府ハ更ニ幾多ノ内債及短期借入金ヲ興シテ、紊亂ヲ重ネシメタノミナラズ外債ノ整理ニ對シテハ何等顧慮スル所ナク、支拂延滯額ガ漸次増加スルニ至ツタカラ、遂ニ十一年十二月日英米佛ノ四國駐支公使ヨリ外債整理ニ關スル共同覺書ヲ受クルニ至ツタ。於是乎政府ハ先ヅ財政會議籌備處及財政討論委員會ニ令シテ整理方針ヲ立案セシメタガ、真摯ナル具體案ノ答復ニ接スルコトガナカツタカラ、更ニ十二年八月ニ從來此種ノ財政整理ノ爲メ

ニ設ケラレタル財政會議籌備處、財政討論委員會、財政整理處、内外債整理委員會等ヲ一律ニ廢止スルト共ニ、新ニ財政整理會ヲ組織シテ、支那財政ノ全局ニ亘ツテ根本的ノ整理計畫ヲ確立センコトヲ企ツルニ至ツタ。併シ何分ニモ立案ノ根幹ヲ爲ス一切ノ資料ニ缺如シテ居ル爲メニ、事業ハ更ニ進行セズ、漸ク十三年四月ニ至ツテ、支那財政ノ内容ニ關スル調査概要ヲ發表シタルニ過ギナイ。而カモ之モ單ニ概觀ニ止マッテ、到底杜撰ナルノ譏ヲ免ル、コトノ出來ナイモノデ、之ニ依テハ未ダ嚴密ニ眞相ヲ捕捉スルコトハ出來ナイ。是ヲ以テ觀ルニ吾人ハ支那政府ニ果シテ財政整理ノ眞意アルヤ否ヤヲ疑ハザルヲ得ナイガ、併シ祕密財政ヲ傳統政策トシタ支那ニ於テハ、一切ノ資料ノ缺如セルコトハ之ヲ認メザルヲ得ナイノデ、整理會々長顏惠慶氏モ其報告ニ於テ、如上ノ點ヲ特ニ力説シテ、立案ノ遲延ヲ辯解シテ居ルガ、政變ノ激甚ナル事實ニモ鑑ミ、這般ノ事情ハ諒スペキデアル。

斯ノ如クニシテ支那政府自身ノ整理計劃ハ、未ダ進歩體現セラル、ニ至ラナイガ、整理ノ必要ノ切迫ニ伴フテ、近年各種ノ具體案ガ或ハ政府ニ建議セラレ或ハ新聞其他ニ發表セラレ、世上ノ注目ヲ惹クニ至ツタ。其主ナルモノハ佛人バヅウ氏、李景銘氏、張英

華氏葉景莘氏及北京米國商業會議所等ノ計劃案デアルガ、如上多クノ立案ノ基礎トナツタモノハ、審計院顧問佛人バヅウ氏ノ提案デアル。同氏ノ整理案ニ依レバ、十二年六月末ヲ標準トシテ財政部負擔ノ無擔保若クハ擔保不確實ノ債務ハ、約五億七千萬元ニ上ルガ、之ヲ一括シテ長期低利ノ新債券ニ借換ヘ、關稅增收ヲ擔保トシテ漸次償還セントスルモノデアル。即チ關稅收入ハ、自然增收ガ近年ノ事實ニ徴シ年額三百萬元ニ上ルノミナラズ前述ノ華府會議ノ結果、遠カラズ一般輸入品ニハ從價二分五厘、奢飾品ニハ從價五分ノ附加稅ガ課セラル、コト、ナル筈デアルガ、之ニ由ル增收ガ約二千八百萬元ニ上ル可キデアルカラ、新債券ノ發行額ガ、割引ニヨリ六億二千五百萬元トナツテモ、當初四ヶ年間ハ勿論關稅餘欵ノミデハ利子ノ支拂ニモ不足スルガ、第五年以後ハ利子ノ支拂ニ支障ヲ來タスコトナク、第十一年ヨリハ優ニ元利ヲ償却シテ尙餘剩ヲ生ズルコトガ出來ルト言フノデアル。之ニ對シテ北京米國商業會議所ハ、交通部負擔ノ債務中ニ無擔保債務ガ一億八百八十萬元アルヲ指摘シテ、之ヲ除外スルコトノ不徹底ヲ論難シテ居ルガ、全ク言ノ如クデアツテ、交通部債務ハ特別會計ニ屬スルケレドモ、財政部ノ流用ハ殆ド常態デアツテ、苟クモ財政ノ整理ヲ遂ゲムガ爲メニハ、内外債同列ニ之

ヲ行フト同時ニ、全債務ニ亘ツテ徹底的ニ辦法ヲ確立スルノデナカツタナラバ、到底有終ノ結果ヲ擧グルコトノ出來ナイノハ、支那財政ノ今日ノ危機ニ瀕スルニ至ツタ經過ニ照シテモ瞭カデアル。若シ斯ノ如クニシテ約七億元ニ達セントシツ、アル一切ノ無擔保内外債ヲ整理セントシタナラバ、上記ノ關稅增收ノミヲ以テシテハ、到底之ニ應ズルヲ得ナイデアラウ。勿論關稅餘欵ヲ以テ如上ノ一切ノ内外債ヲ整理スルコトニナレバ、前ニ述ベタ鹽稅餘欵ヲ擔保トセル幾多ノ短期借入金モ其内ニ包含セラル、カラ、勢ヒ鹽稅餘欵ニ相當ナル餘裕ヲ生ジ、之ニ依テ整理基金ノ不足額ヲ補充スルヲ得ベク、現ニバヅウ氏ノ財政部負擔ノミノ整理案ニ於テモ、當初四ヶ年間ノ利子支拂不足額ハ、此鹽稅餘欵ニ依ツテ補足スル計劃デアル。然レドモ斯クノ如クニシテ支那ニ於テ現下最モ確實ナル財源デアル關鹽兩稅ノ剩餘金ガ、無擔保内外債ノ整理ニ充用セラル、コトニナツタナラバ、一般政費ハ如何ナル財源ニ依テ支辨セラル、カ、バヅウ氏ハ、整理ノ結果烟酒稅印紙稅及京師稅務等ノ收入ガ、内外債ノ擔保タルコトヲ免レ、支那政府ハ完全ニ其管理權ヲ支持運用シ、一般政費ニ充用スルコトガ出來ルト、高調シテ居ルガ、此等ノ財源ヨリ生ズル中央政府ノ收入ハ、前ニ述ベタ如ク現時ニ在テハ一般政費ニ對

シテ九牛ノ一毛ニ過ギナイ。斯クテハ假令錯綜セル幾多ノ内外ニ對スル借款ガ整理セラレテモ、政府ノ一般歳出入ノ上ヨリ觀レバ、徒ラニ新債券ノ發行ニ依テ負擔ガ增加シタノミデアツテ、窮迫シタ財政ニトツテハ何等直接寄與スル所ガナイコト、ナル。從テ叙上ノ如クニシテ内外債ノ整理セラル、以上ハ、之ト同時ニ一般歳出入ニ於テモ改善ノ方策ヲ講ジ、自立ノ途ヲ立ツルニ非ザレバ、整理後數ヶ月ナラズシテ復タモヤ借款ヲ重ネザルヲ得ザルニ至ルハ、過去ノ事實ノ雄辯ニ實證スル所デアル。即チ一般行政費ニ於テ收支ヲ適合セシムルノ策ヲ樹立セナイ以上ハ、如何ニ借款ヲ重ネ幾タビ關稅ヲ増徵シテモ、結局極限ガ無ク、イツシカ依然タル窮狀ニ復ス可キハ疑ナキ所デアル。而シテ之ガ爲メニハ、上ハ督軍、下ハ書吏ノ廢止ヲ以テ最モ適策トシ急務トルノデアル。就中督軍制度ノ全廢ハ先決ノ重要務デアツテ、頃來廢督裁兵ガ殆ド内外ノ輿論トナルニ至ツタノハ當然ノ歸趨デアル。督軍制度ヲ全廢シ今後絕對ニ類似ノ制度ヲ設定セザルニ於テハ、自ヅカラ無用ノ軍隊モ極力制限スルコトガ出來、其結果地方中央ノ經費ハ著シク節減セラル、ノミナラズ、中央ニ對スル送金ノ裁留モ著シク減少シ、收支ノ適合ヲ圖ルヲ得ルト共ニ、且ツ中央地方ノ財政統一モアル程度迄期待セラル、コ

トガ出來ル。支那政府顧問アガソン氏ハ、華府會議開催ニ際シテ政府ニ建言セシ一節ニ曰ク、「支那近年ノ内政ノ疲弊各地方軍隊ノ跋扈官吏ノ過多等ハ、今ヤ其極度ニ達シテ居ル。歲入四億有餘ニシテ之ガ七割ハ軍費ニ流用セラレ、而カモ其歳出ハ六億有半デアルカラ、毎年收支相償ハザルコト二億ニ上ル。支那人ノ負擔スル内外公債及軍費不拂額及俸給不給額等ヲ概算スレバ、其額實ニ三十億ノ多キニ達スル。若シ此ママ百四十八萬ノ常備軍ト二十萬ノ文武官吏トヲ養ツテ行ツタナラバ、則チ米國ノ國庫ヲ以テスルモ其負擔ニ耐ヘナイ。而カモ百四十餘萬ノ常備軍ヲ養フト雖モ、全ク軍備ナキニ異ナラナイ。斯ル不必要ナル軍隊ハ須ラク極力之ヲ減少シテ、完全ナル警察制度ト改ム可キデアル」ト。蓋シ至言タルヲ失ハナイ。次デ又華府會議ニ於テモ參加國間ニ於テ次ノ如キ決議ヲ爲スニ至ツタノデアル。「各國ハ支那ノ各省督軍ガ協調ナク支配スル過大ノ軍隊ヲ各地ニ於テ維持スルガ爲ミニ、支那ノ公收入ヲ甚シク枯渴セシムルコトヲ深ク感シ、右軍隊ヲ繼續維持スルコトハ、支那ノ不安定ナル現政情ノ主タル原因ト認メラル、ト共ニ、右軍隊ニ速ニ大削減ヲ加フルコトハ、啻ニ支那ノ政治的統一及經濟的發達ニ資スルノミナラズ、又其財政復舊ヲ促進スル所以デアルト思料セラル、

ニ因リ、仍チ支那ノ内政ニ干渉セントスル意思デハナク、只管支那ヲシテ右ノ利益ノ爲メ且ツ一般通商上ノ利益ノ爲メニ、有効ニシテ安固ナル政府ヲ樹立維持セシメントスル衷心ノ希望ニ促サレ、又企業及國民ノ繁榮ニ對シ主タル障礙タルコトノ明カナル莫大ナル支出ヲ軍備制限ニ依リ削減スルコトヲ目的トスル本會議ノ精神ニ動カサレ、茲ニ支那政府ガ軍隊及之ニ伴フ支出ヲ削減スルニ付、直ニ有効ナル措置ヲ採ランコトヲ熱望スル旨、支那ニ對シ表明スルト。勿論現下ノ支那ノ國情ヲ以テシテハ、軍備ハ大體ニ於テ國內ノ治安ヲ保持スルヲ以テ足リ、必ズシモ國防ノ爲メノ大ナル軍備ハ之ヲ必要トセナイ。全國ノ軍費ガ今ヤ幾千ニ達スルカハ到底之ヲ審ニスルヲ得ナイガ、近年ノ地方政府ハ之ガ爲メニ歲入ノ大半ヲ充用シテ尙足ラズ、中央ニ對スル貢賦ノ殆ド大部分ヲ裁留費消シ、而カモ其結果タルヤ却テ國內ノ秩序ヲ攪亂シ、和平統一ヲ妨ゲツ、アルハ蔽フ可ラザル事實デアル。從テ軍備ノ裁撤ハ今日ノ支那財政上何ヨリノ急務タルヲ失ハナイガ、併シ之ガ體現ニ至ツテハ決シテ容易ナル業デハナイ。蓋シ之ガ爲メニハ先づ第一ニ督軍制度ヲ全廢シテ、絕對ニ類似ノ官制ヲ設定セザルト同時ニ、他方軍閥ヲシテ隨時ニ手兵ヲ養ハシメ得ル所ノ其源タル無數ノ細民ニ生活上ノ安定ヲ得

セシムルコトガ必要デアル。固ヨリ解散兵ノ處分問題モ重要デアルガ、支那ニハ纔ニ傭兵ト成ツテ生活ノ途ヲ得ルカ、然ラザレバ土匪カ馬賊ノ群ニ投ズルノ外ナキ細民ガ非常ナル多數ヲ占ムルカラ、此等ノ無產階級ニ生活ノ安定ヲ得セシメナイ以上ハ、勢ヒ土匪馬賊ノ跳梁ヲ根絶スルコトガ出來ズ、軍備ノ裁撤モ徹底的ニ實行スルコトガ出來ナクナル。而ルニ督軍制度ノ全廢ハ政治組織ノ一大改革ヲ必要トシ、上ニ述ベタ財政組織ノ改革ト相關聯シ、容易ナラヌ重大問題デアツテ、結局之ガ實行ハ中央政府ノ威力ニ俟ツノ外ナク、他方又無產階級ニ關スル問題ハ、今後ノ支那ノ一大社會問題デアツテ、差シ當ツテハ鐵道治水鑛山等ノ事業ヲ起ス可ク、外國ヨリノ經濟借款ノ援助ニ賴ルノ外ナイ。一體列國ガ彼ノ華府會議ニ於テ、前ニ叙ベタ如ク支那ノ財政ノ根本ヲ涵養スルヲ急務トストノ趣旨ニ基イテ、關稅ノ改正ヲ認容シ、而カモ他方軍備ノ制限ヲ支那政府ニ要求シナガラ、何故ニ當時更ニ進ンデ裁兵ヲ關稅改正ノ條件ト爲サナカツタカ、唯ダ漫然ト附加稅ノ徵收ヲ豫約シタガ爲メニ、爾後支那政府ノ財政策ヲ一層放漫ナラシメ、同增收ヲ目的トシテ徒ラニ高利ノ借款ヲ濫興セシメ、今ヤ同收入ヲ以テシテハ債務ノ整理ニモ尙足ラナイ狀勢デアツテ、增稅ノ根本趣旨タル財源ノ涵養ニハ差シ當リ寄

與スル所ガナイ。何ト言ツテモ關稅改正ニ當初ヨリ條件ヲ付セナカツタコトハ、華府會議ノ一大失態ト言ツテヨイ。

支那ノ上下ノ官廳ニ於テハ概ネ書吏ニ實務ノ處理ヲ委ネツツアルガ爲メニ、其結果行政上ニ及ボス弊害ノ大ナルハ、古來周知ノ事實デアルガ、多年ノ因襲ハ容易ニ一掃シ難ク、曾テ清朝乾隆年間ニモ吏胥ハ五年毎ニ更換ス可キコトヲ定メタコトガアルガ、遂ニ行ハル、ニ至ラナカツタ。併シ革命前迄ハ嚴密ナル廻避ノ制ナルモノガアツテ、官吏ハ其鄉里ニ於テハ任官スルコトガ出來ズ、且地方官ノ任期ハ一地方ニ於テ永キモ三年ヲ超ユルヲ得ナイノミナラズ、元來支那ノ官吏ナルモノハ科甲又ハ捐納ニ依ツテ任ゼラレタモノデ、一ハ經史文學ノ如キ文藝ヲ以テ官ヲ得タルモノデアリ、一ハ黃金ヲ以テ官ヲ購フモノデアルカラ、何レモ法律制度ニ關シテハ何等ノ智識ヲモ有スルコトガナク、從テ地方官ガ任ニ就イテモ、土地ノ情況ニ通曉シ事務慣例ニ熟達シタ書吏ニ實務ノ處理ヲ委ネナクテハ、何事ヲモ爲スコトガ出來ナカツタノデアル。而ルニ革命後ハ如上ノ制度ガ全廢セラレタカラ、今日デハ必ズシモ書吏ヲ存續セシメナクテハナラヌ事由ハナイノデアル。併シ尙古ノ思想ノ熾ナル支那ニ於テハ、制度ノ改革ハ到底遠ニ

之ヲ期待スルコトハ困難デアツテ、結局ハ矢張リ中央ノ威力ニ俟タザルヲ得ナイ。

斯ク觀ジ來ランニハ、當面ノ内外債ノ整理スラモ決シテ容易ナル業デハナク、過去ノ實績ニ徵シテ、支那ノ自力ヲ以テシテ果シテ實行シ得ルヤ、大ニ疑ハザルヲ得ナイノデ、況ヤ財政ノ根本的改革ニ至ツテハ、殆ド不可能ニ非ザルヤヲ感ズルノデアル。於是乎勢ヒ各國ノ助力ヲ籍ルノ外ナキヲ惟フニ至ル所以デアツテ、遂ニハ支那財政ノ共同管理說ヲモ生ズルニ至ル次第デアル。

第六 國際共管說

凡ソ支那國際管理論ナルモノハ、支那ガ共和政府肇立以來、殊ニ紛亂寧日ナク、中外ニ向ツテ到底真ノ共和政府支持ノ能力ナキヲ暴露スルニ至ツテカラ、一部ノ外人間ヨリ盛ニ提唱セラル、ニ至ツタモノデアル。從テ其主張ハ區々デアツテ、甚シキニ至ツテハ支那ノ内政其モノヲ管理センコトヲ力説スルモノガアリ、或ハ單ニ鐵道ノ經營ノミヲ管理センコトヲ提議スルモノガアリ、又一時的管理ヲ主張シ、或ハ永久的管理ヲ高唱

シ、一定セナイガ、結局其所論ハ財政ノ窮乏紊亂セルニ發足シ、焦眉ノ急ハ列國ノ共管ヲ以テスルニ非ザレバ到底匡救ノ途ガナイト云フコトニ據ルモノデアル。

從來本問題ヲ提唱シタ主ナル論者ハウツドヘッド、ギルバート、ブランド、ミラー、ペーカー、メーヤス、オーヴアラツチ等ノ諸氏デアルガ、其管説ガ支那問題ノ一解決案トシテ、其價值ヲ認メラル、コトニナツタノハ、ジエー、オービー、ブランド氏ガ、一九二一年六月倫敦タイムスニ於テ、支那ハ支那人ノ自力ノミヲ以テシテハ奈何トモ出來ナイ腐敗混亂ノ極ニ陷リ、而カモ支那人自身ハ此境ニ安ンジテ之ヲ脱セントスルノ意思ガナイカラ、列國ノ共同干涉ニ依ルノ外、支那ヲ混亂ノ渦中ヨリ救濟シテ、其獨立統一ノ實ヲ全フセシムルコトガ出來ナイト云フ議論ヲ力説シタ以來ノコトデアル。同氏ノ説ノ要旨ハ、「支那ノ領土保全トカ獨立維持トカ云フコトハ、現在ノ状態デハ到底永續セラル可クモナイ。支那ヲシテ獨立國タラシメンニハ、先づ地方ヨリ相應ナル收入ヲ集メ得ルニ足ル有力ナル政府ヲ樹立スルニアル。而シテ之ガ爲ミニハ地方ノ督軍ヲ廢止スルコトガ何ヨリノ急務デアルガ、併シ之ヲ一掃シテ鞏固ナル中央政府ヲ樹ツルコトハ、支那人ニ依頼シテ到底爲シ得ラル、所デナイ。元來斯ル輩ヲ跋扈跳梁セシムルコト」

ガ、適マ支那人ニ政治的能力ノ缺如セルヲ實證スルモノデアル。吾人ガ支那ノ改革ニ方ツテ、外人ノ干渉ノ必要ナルヲ高調スルハ、實ニ如上ノ理由ニ因ルモノデアル。併シ國際的財團ニ依ツテ支那ヲ救フニシテモ、財團ノ組織ト其活動方針ガ明確ニ規定セラレ、且ツ關係列國ノ公平ナル共同管理ノ下ニ置カル、ニ非ザレバ、斯ノコトハ竟ニ不可能トナルヲ免レナイ。若シ國際財團ノ責任及義務ガ明確ニ協定セラル、ニ非ザレバ、財團ハ從來ノ如ク最モ抵抗ノ少ナイ方向ニノミ奔リ、其結果タルヤ支那ノ損失トナルハ疑ラ容レス。世上往々民族自決主義ナル標語ニ眩惑セラレ、外間カラ支那ニ干渉ノ手ヲ伸ブルヨリモ、寧ロ支那ノ自發自決ニ放任ス可キモノデアルト主張スル一種ノ夢想者ガアル。併シ此儘ニ推移センニハ必ラズヤ支那ハ破滅ノ外ナク、滅亡ヨリ救ハントスレバコソ問題ハ起ルノデアツテ、然ラザレバ何等問題ノ起リヤウハナイ。而シテハ決シテ新奇ナル事象デハナイ。即チ例ヘバ財政ノ管理ニシテモ、現在ノ外人ノ關稅及鹽稅管理ヲシテ、更ニ其範圍ヲ稍擴張セシムルニ過ギナインデアル。」ト

以上ノブランド氏ノ提唱以來、其管説ガ一層盛ニ力説セラル、ニ至ツタガ、其要旨ニ

至ツテハ、同氏ノ所論デ以テ十分ニ盡サレテ居ル。併シフーヴア一氏ガ國際清算局ノ設置ヲ提議シ、北京リーダー紙ガ國際的調査機關ノ設立ヲ唱導シタ外鐵道共管ニ關スル問題ヲ除イテハ、一般ノ國際管理ニ付テ何レノ諸説ニ於テモ、何等之ガ實行方法ヲ指示スル所ガナ。唯ギルバート氏ガ中央政府承認撤回論ヲ力説シ、ウッドヘッド氏ガ實權ヲ有スル事務次官ニ外人ヲ採用スペキヲ主張セルニ過ギナ。

支那ノ各般ノ革新、殊ニ財政ノ刷新ニ至ツテハ、何時支那ノ自力ヲ以テ達成シ得ルヤ極メテ覺束ナク、此儘ニ推移シタナラバ自ラ破産スルノ外ナイカラ、何等カノ方法ニ依ツテ外國ノ助力ニ俟ツヲ得策トスルハ、最早論ヲ須タザル所デアル。而シテ列國モ亦支那ノ財政ヲ救濟センガ爲ミニハ、從來ノ如キ一時的姑息ノ策ヲ採ルハ、反テ益々財政ノ紊亂ヲ助長シ、救フ可ラザル深淵ニ陥ルノ結果トナルヲ以テ、須ラク支那ノ財政ヲ窮乏ニ導イタ其根本ノ缺陷ヲ多少タリトモ改メシムルコトニ對シテ、助力スルヲ得策トスル。之ガ爲ミニハ一時一種ノ國際監理ヲ爲スヲ適當トストノ議論ノ立タヌコトハナイ。併シ對支干涉論ガ理論上認容サル、ニシテモ、實行ノ能不能ハ一個ノ大ナル疑問デアル。國際監理ハ、列國ノ協調即チ或ル程度マデ各國ノ利害ヲ犠牲トスルコトヲ

前提トスルコトニ因ツテ、纔ニ其可能性ヲ認メ得ルノデアル。單ナル國際清算局若クハ調査局ノ設立ハ、國際監理ノ前提タル價值ヲ有スルニ過ギナイ。一種ノ對支ドース案ヲ設定實行スルニシテモ、之ガ實蹟ヲ期待スルニハ、列國ノ利害關係ハ獨逸賠償問題ニ對スル如ク深刻デナ。一體外力ニ依ツテ他國ノ改造ヲ企ツルコト其自身ガ、合理性ニ乏シイノデアルガ、殊ニ列國協調ノ下ニ之ヲ行ハントスルガ如キハ、至難ノ業タルヲ失ハナイ。又假令列國ノ協調ガ或ル程度マデ行ハル、トシテモ、支那ノ國民間ニ自國ノ改造ニ對シテ真摯ニシテ熱烈ナル欲求ガ瀰漫シテ居ナクテハ、到底有終ノ效果ヲ全ウスルコトガ出來ナイ。世上動モスレバ國際管理モ一時的ナラバ、之ヲ是認セントスルノ論者ガアルガ、併シ何時果シテ支那人自ラガ國際管理ニ依リテ建テラレタ獨立統一ノ政府ヲ、全然外國人ヨリ離レテ支持スルコトガ出來ルヤウニナルデアラウカ、若シ之ガ近キ將來ニ期待セラレナインアバ、一時的ナルノ故ヲ以テノミ之ヲ是認スルヲ得ナイ。支那ノ政治狀態ノ今日アルハ、支那人ニ政治上ノ智能ヤ訓練ガ缺如シテ居ルガ爲メノミデナイ以上ハ、一時的ノ國際管理ニ依ツテ、遠カラズ自立ノ域ニ達シ得ベシトハ惟ハレナイ。現ニ鐵道ノ如キ外人ノ手ヲ離レタモノハ、間モナク非常ナル不成績

ニ陷ツテ居ル有様デアル。加之支那ニ於ケル傳統的尙古ノ氣風ハ、後ニモ詳述スル如ク著シク諸般ノ革新ヲ妨ゲテ居ル狀態デアルカラ、一事一物ト云ヘドモ短日月ノ間ニ改善ノ實ヲ舉グルコトハ容易デナイ。現ニ廢督裁兵ノ實行ニシテモ、今日ノ如ク產業起ラズ、労働過剩ノ狀態デアツテハ、軍隊ヲ解散シテモ、之ヲシテ正業ニ就シカムルコトガ出來ナイ。元來軍隊ハ正業ヲ有セナイ土匪ヤ苦力ノ輩ヨリ募集シタモノデアルカラ、矢張リ元ノ彼徒ノ群ニ投ズルノ外ナキニ至リ、何時マデモ平和ヲ回復スルコトガ出来ナクナルノデアル。去リトテ此種ノ浮浪ノ徒ヲ無クスルト云フコトハ、決シテ短年月ヲ以テ出來得ベキコトデハナイ。又一部ノ論者ガ、關稅並ニ鹽稅ガ殆ド支那ノ管理ヲ脱シテ、外人ノ手ニ歸シタガ爲メニ、全然其面目ヲ一新シタヤウニ、其他ノ收入ニ於テモ進ンデ外人ノ管理ニ委スルヲ得策トスト主張スルガ、關稅改進ノ成功ハ、殆ド他國ノ容喙ヲ容サヌ獨占的制御ノ下ニ置カレタ一種ノ單獨管理ノ結果デアルト共ニ、斯ノ如クニシテ若シ關稅ハ英人ニ、郵政ハ佛人ニ、次デ更ニ煙酒稅ハ米人ニト言フ如クニ管理セラルルニ至ツタナラバ、自カラ各國ノ行政的割據ガ示現セラレテ、遂ニハ勢力範圍ノ占守ト同様ノ弊ヲ釀成スルニ至ル惧ガアル。之ヲ要スルニ共管ハ國際上ノ協調

ニ於テ大ナル障礙ガアルノミナラズ、假令此障礙ヲ除去シ得テモ、支那ノ國民間ニ自國ノ腐敗混亂ヲ匡救セントスル真劍ナル熱求ガナイ以上ハ、徒ラニ支那人ノ自尊心ヲ傷ケテ、紛糾ヲ重ネシムルカ、然ラザレバ益々彼等ノ自發心ヲ抑制スルコト、ナリ、全ク豫期ニ反シタ結果ヲ招來スルコト、ナルニ相違ナイデアラウ。

之ヲ要スルニ支那ノ改造ニ對シテ列國ガ助力ヲ與フルコトノ必要ナルハ、多クノ識者ノ認ムル所デアルガ、如何ナル方策ヲ以テセバ、支那ノ主權ヲ侵害スルコトナク、其強烈ナル自尊心ヲ傷クルコトナク、且好ク各國ノ協調ヲ保ツヲ得、而カモ十全ノ結果ヲ期シ得ルカト言フコトガ、問題トナルノデアル。而ルニブラント氏ヲ首メ何レノ論者モ、支那ノ行政乃至財政ニ對スル一般管理ニ關シテハ、何等其方策ニ付イテ論述スル所ガナイガ、上來叙ブル如ク之ガ實行ノ根本ニ於テ至大ノ困難ガ横ハツテ居ルカラ、一般的ノ共管ハ言フ可クシテ行ヒ難キ懸案タルヲ免レナイ。但シ鐵道ノ共管ニ付テハ、ウッドヘッド、ミラード、メーヤス、ベーカー等夫々之ガ實行方法ヲ提唱シテ居ル。而シテ其論ズル所ハ、何レモ支那ノ鐵道政策上從來ノ如キ特許主義ニ依ルハ、弊害甚シキヲ以テ、此種ノ宿弊ヲ一掃スルト共ニ、更ニ鐵道經營上ノ效果ヲ全カラシムルニハ、全國ノ鐵道

經營上ノ效果ヲ全カラシムルニハ、全國ノ鐵道ヲ回収シテ凡テ國有トナシ、一鐵道體系ヲ形成スルト同時ニ、主ナル各國ノ協力ニ依テ或ル種ノ管理ヲ爲サントスルモノデアル。勿論管理ノ方法及範圍ニ至テハ、各家ノ意見必ズシモ同一デナク、ウツドヘツド氏ベ、外債ヲ完済スルマデ、外人専門家ヲ含ム中外鐵道管理局ヲ設ケテ、全國ノ鐵道ノ經營ニ當リ、而カモ其關與スル外人ノ地位ハ、英國ニ於ケル事務次官ノ如ク、部下ヲ指揮監督シテ大臣ノ裁定シタ最高政策ヲ實際ニ執行スルノ實權ヲ有スルモノデナケレバナラスト主唱スルノデアル。之ニ對シテミラード氏ノ説ハ、先づ支那政府ヲシテ資金ヲ調ヘテ全國ノ借款鐵道ヲ回收セシメテ、新ニ敷設セラルベキ鐵道ト共ニ、中央鐵道省ヲ設ケテ其管下ニ屬セシメ、中央鐵道省ハ交通總長ノ管轄トシテ、日英米佛支ヨリ選出セラレタ委員ヲ以テ組織シ、支那ノ鐵道ガ安全ナル投資物トシテ世界ノ鐵道ト徑庭ナキニ至ルマデ、之ヲ共同管理セントスルモノデアル。尙交通部顧問ベーカー氏ノ建言ニ依レバ、萬國鐵路團、國際合資鐵路公司若クハ萬國委員會ヲ組織シテ、既成線路ノ買收及新線ノ敷設ヲ爲サントスルモノデ、之ガ爲メ萬國鐵路團設立ノ場合ニハ、各國及支那政府ヨリ各代表一名ヲ選出セシメテ組織シ、債票ヲ發行シテ資金ヲ調達スルコト、シ、國際

合資鐵路公司ヲ設立スルトキハ、各國ノ銀行團ヲ以テ組織シテ、各其出資ニ依ツテ事業ヲ遂行スルコト、シ、萬國委員會ヲ設クル場合ニハ、各國及支那ノ選出委員ヲ以テ組織シ、資金ハ支那政府ヲシテ調達セシメントスルノデアル。又中英公司ノ代表者メーヤース氏ノ提案デハ、中央ニ國際管理局又ハ國際管理委員會ヲ設ケテ、鐵道ノ收支ヲ監理セシムルト共ニ、材料ノ購入ヲ管掌セシメ、各線路ニハ技師長兼總支配人タル可キ外人ヲ配シ、且其下ニ會計主任、保線監督、運輸主任、機關監督及材料監督ヲ置キ、各外人ヲ以テ之ニ充テントスルモノデアル。

以上各種ノ提案ニ對シ、支那政府ニ於テモ、一九一九年一月巴里講和會議ニ對スル提案審議會ニ於テ、鐵路統一案ヲ討議シ、結局既成未成ノ各線ヲ統一シテ一體系トナスト共ニ、其資本及債務ヲモ合一シテ一總債トナシ、外國専門家ヲ任用シテ交通部ノ指揮ノ下ニ共同經理ニ當ラシムトノ案ヲ立テタガ、曹汝霖及陸宗輿ヲ中心トスル當時ノ所謂新交通係ノ反對ノ爲メニ、遂ニ具體化スルニ至ラナカツタ。

之ヲ要スルニ支那ノ鐵道ハ、之ヲ系統的鐵道網ニ統一スルノミナラズ、其經營ヲ根本的ニ改善スルヲ緊要トスルト共ニ、之ガ爲メニハ是非外國ノ助力ニ俟タネバナラヌコ

トハ、内外ノ齊シク認ムル所デアルガ、如何ナル方策ヲ以テセバ、十全ノ結果ヲ期シ得ルカト言フコトガ、一般ノ財政管理同様最後ノ問題トナルノデアル。勿論叙上ノ各説ハ、何レモ其圓滑ナル實行ヲサヘ期シ得レバ、其結果各國ノ勢力範囲並ニ政治的特權ヲ排除シ、純然タル機會均等主義ヲ樹立シ得ルト同時ニ、列國ノ支那ニ對スル危惧ヲ去リ、鐵道ノ發達ヲ期シ得ルヤ疑フ容レナイガ、併シ論者ノ言フ如クニ中央ニ如何ナル種類ノ管理機關ヲ設定シ、地方ニ幾人ノ監理官ヲ設ケテミテモ、現時ノ如クニ幹線鐵道ガ態ニ軍用ニ供セラレ、營業收入ガ自由ニ督軍ノ爲メニ使用セラル、ガ如キ狀態デハ、到底此種ノ機關ヲ以テシテハ奈何トモスルコトガ出來ズ、結局管理ノ目的ヲ達成スルヲ得ザルハ、疑ナキ所デアル。於是乎適當ナル警察力ヲ組織シテ、車輛ノ沒收、線路ノ盜用及金庫ノ掠奪カラ、支那ノ鐵道ヲ保護スルノ必要ヲ見ルノデアツテ、ラウンド、テーブル誌(一九二二年)ノ如キハ、鐵道ノ警備ハ支那改造ノ凡テ、ハナイガ、支那ノ改造ニ際シテ最初ニ必要トスル措置タルヲ失ハナイ、若シ根本ノ鐵道警備ダニ完全ニ行ハルレバ、他ノ枝葉ノ問題ハ自ラ解決セラル、デアラウ、トマデ極論シテ居ル。蓋シ至言タルヲ失ハナイガ、果シテ同誌ノ提案ノ如キ、外人ノ警務總長及一部將校ノ下ニ支那人ノ警備隊ヲ組織

スルコトニ依テ、如上ノ軍閥ノ橫暴ヲ防遏スルヲ得ルヤ否ヤ、頗ル疑問タルヲ失ハナイ。要スルニ鐵道經營ニ對スル共同管理上、縱ヘ列國ノ協調ガ圓滑ニ保タレタニシテモ、如上ノ形式的ノ組織デハ、或ル程度マデ官吏ノ非行ヲ監督シ、土匪ノ掠奪ヲ防遏スル位ノコトハ出來テモ、彼ノ紊亂頽廢セル國情ノ下ニ於ケル秩序ノ維持、交通行政ノ統一ヲ期スルコトハ蓋シ至難タルヲ免レナイ。若シ之ヲ徹底的ニ行ハントセバ、遂ニハ列國ノ軍隊ヲ全國各地方ノ要區ニ配置スルノ外ナキニ至ルデアラウ。元來支那百般ノ政治ヲ閑却シテ、而カモ交通行政ノ改革ノミヲ行ハントスルモ、畢竟徒ラニ空論ヲ戰ハスニ了ルノミデ、政治ノ基本確立シ、國內ノ統一完全スルニ非ザレバ、鐵道行政ノ改善ノ如キ到底言フ可クシテ行フヲ得ナイ。

勿論中央政府ノ實力ヲ充實スルニハ、財政ノ改善ヲ先決ノ急務トシ、財政ヲ改善スルニ當リテ、其國情並ニ財政組織ニ照シテ、歲入ノ多クヲ一般文明國同様ノ財源ニ求ムルコトハ實ニ至難デアリ、勢ヒ主トシテ關稅收入並ニ鐵道收入等ニ賴ラネバナラヌカラ、外國トノ借款關係ヲ離レテモ、鐵道行政ノ改革ハ支那ノ急務トスル所タルヲ失ハナイガ、各國ノ行政的割據ハ弊害多ク、純然タル共同管理ハ到底國際關係上十全ヲ期シ難ク、

而カモ支那ノ自主權ヲ毀損スルコトナクシテ管理ノ實ヲ擧ゲルコトハ至難デアルカラ、或ル程度ノ國際的援助ヲ以テ満足スルノ外ナカラウ。

第七 結 言

上來叙ブル所ニ依ツテ觀ルニ、支那財政ノ今日ノ危機ニ瀕スルニ至ツタ所以ハ、元來其財政組織ノ不統一デアツテ、紛糾錯雜セルト共ニ、財政方針ガ亦甚ダ不徹底デアツテ、亂雜極マレルニ、更ニ民國以來政治ノ基礎殆ト崩壊シ、國家統治ノ中心ナキノ態ヲ呈スルニ至ツタガ爲メニ外ナラヌ。世上往々支那ノ豊富ナル經濟資源ト人口トヲ基礎トシテ、其財政ノ何等悲觀スルニ足ラザルヲ高調スル論者ガ少ナクナイ。現ニ前掲財政整理案ヲ提議セシ支那政府顧問パヅー氏ノ如キモ、各國一人當リノ租稅負擔額ガ、英百七十元、佛九十元、伊二十四元、白三十元、米百二十元(聯邦課稅額ノミ)、日十六元デアツテ、其他東洋諸地方ノ屬領等デスラ、比律賓七元半、佛領印度支那五元半、暹羅九元半、蘭領東印度十五元・デアルニ、獨リ支那ハ僅ニ一元五分ノ一一當ルニ過ギナイ。公債ノ如キ

モ近年遽ニ激増シタトハ言ヘ、一人當リ負擔額ハ、英千四百四十元、佛千三百十元、米四百三十三元(聯邦公債ノミ)、白百十二元、伊百九十元、日五十元ナルニ、支那ハ僅々四元一角五分ニ過ギナイ。從テ唯政治上ノ地位ニシテ適當ニ改善セラル、ニ於テハ、財政上ノ困難ノ如キ毫モ意トスルニ足ラナイコトヲ強調シテ居ル。勿論支那ノ國民ガ幾千ノ國費ヲ負擔セルヤハ、到底之ヲ審ニスルヲ得ナイケレドモ、其實際ニ微シテ彼等ノ經済力ニ比スルモ必ズシモ過重デナイコトハ瞭カデアル。併シイカニ財源ガ豊富デアツテモ、政治ノ基本ガ樹立セラレズ、組織ノ根本ニ上來叙ベタ如キ至大ノ缺陷ガ存在シテハ、イツマデモ今日ノ窮状ヲ脱却スルヲ得ナイ譯デアツテ、凡ソ國內ガ麻ノ如クニ素レ、國家統治ノ根本確立スルナキ支那ノ現狀ニ於テ、政治ノ基本ヲ閑却シテ、獨リ財務行政ノ刷新ヲノミ圖ラントスルモ、到底能ハザルハ火ヲ睹ルヨリモ瞭カデアル。

然レドモ彼ノ龐大ナル國土ニ、數億ノ民生ヲ包有シ、幾千年ノ歴史ヲ閱シタル其實際ニ就テ觀ルニ、支那ノ政治上ノ統一ノ極メテ至難ナルヲ惟ハザルヲ得ナイノデアル。史上漢トイヒ唐トイヒ元明清トイヒ、全國ノ統一時代モ必ズシモ少ナクナイガ、分裂割據ノ時代争亂分立ノ時代モ亦決シテ短クナイ。而カモ其統一時代ニ於テモ、中央ノ威

令ガ全國ニ普及シ、地方財政ヲ自由ニ管理シ得シハ、一王朝ノ初期長クモ百年ヲ出ヅルコトガナク、古來集權的國家ノ出現セシハ極メテ稀デアル。唯明清時代ガ支那固有政治ノ最モ發達シタ時代デアリ、比較的支那ノ社會ニ融合セシ政治ノ行ハレタ時代デアツタ。併シ革命ノ亂ニ依ツテ、從來清朝ガ強弩ノ末勢デ辛ウジテ維持シヲ居ツタ形式上ノ求心力ヲ全ク破壊シテ、數百年來漸次惰力デ以テ盛ンニナツテ來タ遠心ガ出現シテ來タノデアルカラ、今更世界ノ大勢ニ逆行シタ舊政治ガ、尙行ハル可クモナイ。

何故ニ斯ノ如ク支那ノ統一ガ困難デアリ、殊ニ集權的國家ノ成立ヲ至難トスルカトイフニ、勿論少ナカラズ各地間事情ヲ異ニスル廣大ナル國土ニ、劃一的政治ヲ行フコトノ殆ド不可能ナルニモ基因スルガ、寧ロ根本ノ原因ハ、支那上下ノ國民間ニ國家思想乃至政治思想ノ缺如セル點ニ在ル。蓋シ支那ニテハ古來國ト云フ文字ハアルガ、ソレハ諸侯王ノ國ト云フ程度ノ意味デアツテ、全國ヲ包擁シタ國家的意義ヲ有スルモノデハナイ。事實又支那ハ、古來國家トシテヨリモ寧ロ大ナル社會的集團トシテ存立ノ歴史ヲ保有シ來ツクモノデアル。而カモ加フルニ支那ノ政治ハ、古來德治主義ノ政治デアツテ、直接社會民衆ノ實際生活ニ干涉セズ、治メザルヲ以テ治メルトカ、無爲ニシテ化ス

ルトカ云フコトガ、政治ノ傳統的理想トナツテ居ツタカラ、勢ヒ政治ハ國內ニ普及セズ、全ク讀書人ノ遊戲トナリ、一般人民ノ實生活トハ全然沒交渉ノモノトナツタ。其結果自ヅト人民間ニ自治制度ガ發達シ、漸次政治上ノ保護ヲ必要トセザルニ至ツタモノデアル。而シテ殊ニ近代ノ制度トシテハ、前ニモ叙述ヘタ如ク中央地方官廳各相互間直接ノ隸屬關係ナキヲ特色トシ、國家ノ官吏ヲシテ互ニ相籍制シテ、以テ私ニ權勢ヲ養フコトナカラシメント企テタガ爲メ、獨裁政治トシテハ理想的デアツタガ、其臣僚ナルモノニハ何人ニモ完全ナル權力ガナイト同時ニ、十分ナル責任モナイト云フ有様デアツテ、就中地方官ノ如キハ何人モ自己ノ出生地ニ於テ任官スルヲ得ナカツタカラ、勢ヒ地方人民ノ利害休戚ヲ念トスルコトナク、其重要職務タル徵稅權ヲ利用シテ一意私利ヲ圖ルノ態デアツテ、而カモ其間官吏ニ非ザル胥吏ナル者ガアツテ實際ノ政務ヲ執ルト云フ、私慾ヲ恣ニスルニハ極メテ便宜ナル行政組織ニナツテ居ルノデアル。從テ其結果遂ニハ人民ハ政治ヲ害惡視シ、之ヲ逃避セントスルニ至リ、租稅ヲ納ムルハ、宛モ土匪群盜ニ對シテ貢納金又ハ贖身銀ヲ支拂フト同一視スルニ至ツタノデアル。斯クシテ地方人民ハ益々官ノ保護ヲ受クルト云フ念慮ヲ失フト同時ニ、自ヅト保甲制度ヤ組合制（ジス）（ガルド）

度^{テム}ガ發達シテ、民政上必要ナル事業、例ヘバ救貧、育嬰、學校等ノ如キ事業ハ勿論、其他警察、司法ニ關スル業務ニ至ルマデ、凡テ自治團體ノ力ヲ以テ遂行スルニ至ツタモノデアル。サレバ畢竟近來ノ支那ハ、一ツノ大ナル國トハ云フテモ、實ハ小ナル地方自治團體ガ各區劃ヲ成シテ居ツテ、是レノミガ生命アリ體統アル團體デアルノデ、人民ハ全然政治ヲ離レテ爰ニ生活ノ根底ヲ置イテ居ルモノニ外ナラナイ。從テ支那ニ戰亂ガ起リ騷亂ガ生シテモ、ソレハ政治ヲ遊戲トシ若クハ職業トスル少數ノ人民間ノ争デアツテ、即チ社會ノ極メテ表面ノ一部分ノ波瀾ニ過ギナイノデ、社會ノ内部實質ヲ構成シテ居ル大多數ノ人民ニハ直接何等ノ交渉ヲ有セザルヲ常トスルノデアル。斯ノ如ク支那ノ多國際的ノ管理ヲ受クルコト、ナツテモ、國民ノ實生活ニハ殆ド沒交渉デアルダケ、却テ支那ノ自發ヲ妨グ、有終ノ效果ヲ全ウスルコトガ出來ナイノデアル。夫レヨリモ寧ロ支那ノ人民ヲシテ國家的政治的ニ覺醒セシム可ク、各國ハ彼等ノ自奮自發ヲ促スヤウニ助成スルコトガ必要デアル。支那ノ統一モ國民ノ自覺ト愛國ノ熱情トヲ基礎ニシテ初メテ期待セラル、ノデアル。併シ今日ノ所デハ中央集權主義ノ政治、中央集權主義ノ財政ナルモノハ到底成功ノ見込ハナイ。尙清朝ト云フ二百年來ノ積威ヲ有ツタ中心ノアツタ末年ノ時代ニ於テスマ、中央集權策ニ依ツテ統一力ヲ振起セントシテ失敗ニ了ツタノデアルカラ、前ニ述ベタ如ク形式上ノ求心力ノ全ク破壊シ、遠心力ノ急激ニ發達シタ今日ニ於テハ、到底中央集權策ハ成功ス可クモナイ。從テ統一力トシテハ極メテ薄弱デアルケレドモ、一種ノ變形シタ聯邦制度ヲ國ノ基礎トシテ、其ニ依ツテ統一スルノ外ナイデアラウ。元來支那ノ社會組織デハ、上述ノ如ク自治團體ガ特ニ發達セルヲ長所トシテ居ルカラ、其利用ノ方法ニ依ツテハ自治ノ基礎ヲ立テルコトハ必ずシモ困難デナイ。而シテ從來支那ノ民政ノ最大弊害トセラレタ民政請負組織ヲ根底カラ廢絶セシメテ、鄉官制度ヲ採用シタナラバ、地方官モ自ヅカラ地方ノ利害休戚ヲ念トスルニ至リ、數千年來ノ積弊モ漸次一掃サル、デアラウ。尙支那ハ列國ノ均勢上全ク國防ヲ廢シテモ、其侵略サレル土地ニハ制限ガアツテ、決シテ其獨立ヲ危フクスルガ如キコトハナイカラ、軍備ヲ撤シテ自治團體ニ地方ノ警備ヲ任ジテモ決シテ危險ハナイ。因テ今後ハ徒ラニ從來ノ如ク強キテ中史集權策ヲ固執スルヲ排シ、中央政府ノ權義ハ可及的之ヲ制限シ、其財政モ極力之ヲ縮少シ、地方分權ヲ國是ノ根本ト爲スヲ得

策トスルノデアル。而シテ地方ノ財政ハ可及的方ニ依ツテ維持シ、其代リ地方ノ獨立ハ或ル程度迄之ヲ認メルコトヲ根本方針トスベキデアル。斯クセバ從來中央政府ガ龐大ナル領土ニ徒ラニ空文ノ命令ヲ下シ、目的ノ政策ヲ達成セシムルコトノ困難デアツタ弊害ヲ除クトガ出來ルト共ニ、元來支那人ハ自治觀念ノ發達セルコトヤ、祖先崇拜ノ思想ノ強烈ナルコトノ關係上、特ニ地方觀念ガ強ク、愛鄉心ガ熾デアルカラ、各地方ガ自治主義ノ政府ヲ樹立スルコトニナレバ、或ハ案外速ニ地方ノ行政財政ノ基礎ヲ確立スルニ至リハセナイカト惟ハレルノデアル。但シ支那ニ如何ナル政治ヲ施行スルニシテモ、結局ハ國民ノ政治德義ガ根本トナルモノデアルカラ、若シ到底自治的行政ニ依ツテ成立ツコトノ出來ナイ程、支那ノ國民ノ政治德義ガ敗壞サレテ居ルモノデアレバ、支那ハ到底共和政治ニ依ツテ統治スルノ外ナキ國デアルトセナケレバナラヌ。勿論軍事上ヨリ支那ガ自發的ニ革新シタ實例ハ歷史上ニ存在スルト共ニ、單ニ統一ヲ求ムル點カラスレバ、寧ロ最モ捷徑デアリ適策タルヲ失ハヌガ、永續性ヲ缺クト共ニ、將來ニ禍根ヲ貽ス惧ガアルカラ、敢テ推獎スルヲ得ナイ。

之ヲ要スルニ支那ノ統一ハ、地方自治制ヲ基礎トシテ進ムルノ外ナイガ、ソレモ矢張リ支那ノ自覺自發ニ基カナクテハ、到底有終ノ效果ヲ見ルコトハ出來ナイ。去リトテ漫然此儘ニ推移シタナラバ、支那ハ何時果シテ自力ヲ以テ自國ノ改造ヲ達成シ得ルヤ極メテ覺束ナイカラ、依然各國ノ助力ニ頼ラネバナラヌ。併シ各國ガ支那ノ革新ヲ助タルニシテモ、支那ノ自發ヲ妨グルガ如キ舉ニ出ヅルコトハ、必ズシモ支那ノ爲メニ利益デアルトハ言フヲ得ナイ。各國トシテハ一面寧ロ支那ノ自覺自奮ヲ促スノ舉ニ出ヅルト共ニ、他面目的ノ遂行ヲ助成スルニ止メナクテハナラヌ。又支那トシテモ何時迄モ空漠ナル體面論ニノミ捉ハレナイデ、多年ノ積弊ヲ打破シ肅清セントスルノ大業ヲ達成セシムル爲メニハ、節ヲ屈シテ先進國ノ教ヲ受ケ助力ヲ籍ルノ襟度ヲ持セネバナラス。頃來支那ハ徒ラニ國權ノ恢復ニ焦慮シナガラ、而カモ之ニ伴フ肝腎ノ内政ノ改善ニ至ツテハ、殆ド之ヲ顧慮セナイ嫌ガアル。列國ハ空虚ナル此種ノ支那ノ提言ニ捉ハル、コトナク、寧ロ進ンデ支那ノ爲メニ其内政ノ改善ニ眞摯ナル助力ヲ與フ可キデアル。即チ從來ノ如ク徒ラニ借款ヲ重ネシメ、若クハ關稅ヲ増徵スルガ如キ支那ノ歎心ヲ購フコトニ費心シ、而カモ其結果單ニ支那國民ノ負擔ヲ大ナラシムルノミデア

ツテ、毫モ支那財政ヲ改造ニ寄與スル所ナキ策ハ斷然之ヲ避け、寧ロ進ンデ支那ノ根本的政治革新ニ向ツテ積極的援助ヲ與フ可キデアル。尙急遽其效果ヲ期待スルヲ得ナイガ、支那ノ根本改造ハ其天然資源ノ開發ニ俟ツノ點ガ多イ。即チ經濟資源ノ開發ニ由ツテ民衆ノ實力ヲ増スコト、ナレバ、勢ヒ軍閥ノ壓迫ニ對シテモ抵抗力ヲ生ズルニ至リ、國民自身ガ其統治機關ヲ今日ノ鄉國其他自治組織ニ限ラナイデ、更ニ省乃至全國ニ及ボスニ至リ、爰ニ國民ヲ基礎トシテ統一的政治組織ガ完整セラル、ニ至ルデアラウ。從テ列國トシテハ殊ニ之ガ實現ヲ促成スペク助勢スルコトガ必要デアル。之ヲ總スルニ支那財政ノ革新ハ其政治ノ改造ニ俟ツノ外ナク、其政治改造ハ一面地方自治制ヲ基礎トスルト共ニ、他面產業ノ開發ニ依ラネパナラヌガ、各國タルモノハ之ニ對シテハ左ナキダニ熾烈ナル支那國民ノ自負心ヲ誘發スルガ如キ舉ニ出ヅルナキト共ニ、去リトテ彼等ノ自發ヲ妨グルコトナク、徒ラニ表面ニ現ハレタ一部職業政治家ノ舉措ニノミ捉ハル、コトナク、飽ク迄モ一般國民ノ利益ヲ基調トシテ、支那改造ヲ助成スペキデアル。

附

錄

本會設立年月日

大正七年八月八日

本會寄附行為

第一章 總 則

- 第一條 男爵牧野伸顯平山成信ハ赤星鐵馬ノ寄附ニ係ル金壹百萬圓ヲ以テ財團法人ヲ設立ス
- 第二條 本財團法人ハ啓明會ト稱ス
- 第三條 本會ハ公益ニ資スル爲メ左ノ事業ヲ行フヲ以テ目的トス
 - 一 特殊ノ研究調査、著作ヲ助成シ及發明發見ヲ獎勵スルコト
 - 一 必要ニ依リ本會自カラ専門家ニ依頼シテ前項ノ事業ヲ爲スコト

ツテ、毫モ支那財政ヲ改造ニ寄與スル所ナキ策ハ斷然之ヲ避け、寧ロ進ンデ支那ノ根本的政治革新ニ向ツテ積極的援助ヲ與フ可キデアル。尙急遽其效果ヲ期待スルヲ得ナイガ、支那ノ根本改造ハ其天然資源ノ開發ニ俟ツノ點ガ多イ。即チ經濟資源ノ開發ニ由ツテ民衆ノ實力ヲ増スコト、ナレバ、勢ヒ軍閥ノ壓迫ニ對シテモ抵抗力ヲ生ズルニ至リ、國民自身ガ其統治機關ヲ今日ノ鄉團其他自治組織ニ限ラナイデ、更ニ省乃至全國ニ及ボスニ至リ、爰ニ國民ヲ基礎トシテ統一的政治組織ガ完整セラル、ニ至ルデアル。從テ列國トシテハ殊ニ之ガ實現ヲ促成スペク助勢スルコトガ必要デアル。之ヲ總スルニ支那財政ノ革新ハ其政治ノ改造ニ俟ツノ外ナク、其政治改造ハ一面地方自治制ヲ基礎トスルト共ニ、他面產業ノ開發ニ依ラネバナラヌガ、各國タルモノハ之ニ對シテハ左ナキダニ熾烈ナル支那國民ノ自負心ヲ誘發スルガ如キ舉ニ出ヅルナキト共ニ、去リトテ彼等ノ自發ヲ妨グルコトナク、徒ラニ表面ニ現ハレタ一部職業政治家ノ舉措ニノミ捉ハル、コトナク、飽ク迄モ一般國民ノ利益ヲ基調トシテ、支那改造ヲ助成スペキデアル。

附 錄

本會設立年月日

大正七年八月八日

本會寄附行爲

第一章 總 則

- 第一條 男爵牧野伸顯平山成信ハ赤星鐵馬ノ寄附ニ係ル金壹百萬圓ヲ以テ財團法人ヲ設立ス
- 第二條 本財團法人ハ啓明會ト稱ス
- 第三條 本會ハ公益ニ資スル爲メ左ノ事業ヲ行フヲ以テ目的トス
 - 一 特殊ノ研究調査著作ヲ助成シ及發明發見ヲ獎勵スルコト
 - 一 必要ニ依リ本會自カラ専門家ニ依頼シテ前項ノ事業ヲ爲スコト

二

一 外國ニ於ケル同種ノ事業ヲ紹介シ又ハ著作ヲ反譯スルコト

一 本會ノ目的遂行ノ爲メ必要ナル講演ヲ開キ又ハ出版ヲ爲スコト

第四條 本會ノ事務所ハ之ヲ東京市麹町區永樂町一丁目一番地ニ置ク

第五條 本會ノ事業年度ハ毎年一月一日ヲ以テ始マリ十二月三十一日ヲ以テ終ル但

初年度ハ本會設立ノ日ヲ以テ始マル

第六條 本會附行爲ノ條款ハ評議員會ノ決議ヲ經且主務大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ變更スルコトヲ得

第二章 役 員

第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一 理 事 長 一 名

一 理 事 五 名

内 一 名 ヲ 常務理事トス

一 評 議 員 十 五 名

第八條 理事長及理事ハ評議員會ノ決議ヲ以テ評議員中ヨリ之ヲ推薦ス但本會設立ノ際ハ寄附者之ヲ推薦ス

理事長ハ本會ヲ代表シ理事會及評議員會ノ議長ト爲ル

理事ハ會務ヲ掌理ス

第九條 初度ノ評議員ハ寄附者之ヲ推薦シ缺員ヲ生シタルトキハ評議員會ノ決議ヲ以テ其補缺ヲ爲ス

評議員ハ重要ナル會務ヲ審議ス

第十條 理事長及理事ノ任期ハ三年トス但重任ヲ妨ケス

第十一條 本會ニ必要ナル事務員以下ハ理事長之ヲ任免ス

第三章 顧 問 及 委 員

第十二條 本會ニ顧問若干名ヲ置ク

顧問ハ評議員會ノ決議ヲ以テ之ヲ推薦ス但本會設立ノ際ハ寄附者之ヲ推薦ス

第十三條 顧問ハ本會ノ諮詢ニ應シ且隨時理事會及評議員會ニ出席シテ意見ヲ開陳

三

第十四條 本會ハ必要ニ應シ各種ノ委員ヲ置ク
委員ハ理事長之ヲ囑託ス

第四章 會 議

第十五條 會議ヲ分チテ理事會及評議員會トス

第十六條 理事會ハ理事長隨時之ヲ召集ス

第十七條 理事會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議長
ノ表決ヲ以テ之ヲ決ス

第十八條 評議員會ハ通常及臨時トス

通常評議員會ハ毎年十二月及三月ヲ以テ理事長之ヲ召集シ本會ノ豫算及決算ヲ議
定ス

臨時評議員會ハ理事長必要ニ應シ之ヲ召集ス

評議員五名以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求スルトキハ臨時會ヲ召集ス

ルコトヲ要ス

第十九條 左ノ事項ハ評議員會ノ議ニ付スルヲ要ス

- 一 寄附行爲ノ變更
- 一 本會諸規則ノ制定變更
- 一 本會ニ於テ施行スヘキ事業ノ決定
- 一 理事長理事及顧問ノ推薦
- 一 資產管理ノ方法
- 一 其他理事會ニ於テ評議員會ノ決議ヲ要スト認メタル事項
- 第二十條 評議員會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議
長ノ表決ヲ以テ之ヲ決ス但左ノ場合ニ於テハ評議員三分ノ二以上ノ出席アリ且出
席者三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
- 一 寄附行爲ノ變更
- 一 不動產ノ買入
- 一 理事長及理事ノ推薦

第五章 資產

六

- 第二十一條 本會ノ資產ハ左ニ掲クルモノヲ以テ之ヲ組成ス
一 寄附財產金壹百萬圓
一 本會ノ事業又ハ財產ヨリ生スル收益
一 其他本會ニ於テ取得スル財產
- 第二十二條 本會ノ財產ハ國債證券又ハ確實ナル有價證券ヲ買入レ若クハ郵便官署
又ハ確實ナル銀行ニ預ケ入ルモノトス但特別ノ事情アル場合ニハ評議員會ノ決
議ヲ經テ不動產ヲ買入ルコトヲ得

第六章 會計

第二十三條 本會ノ收支ハ毎事業年度ノ末日ヲ以テ之ヲ決算ス

第二十四條 本會ハ事業年度毎ニ財產目錄貸借對照表及事業報告書ヲ作り決算ト共
ニ評議員會ニ提出スヘシ

本會職員名簿

(イロハ順)

顧問	伯爵	牧野伸顯
理事長	男爵	平山成信
常務理事	鶴見左吉雄	
理事	串田萬藏	
	小山之内一次	
	松浦鎮次郎	
	小松謙次郎	
七		

評議員

農學博士	工學博士	工學博士	工學博士	文學博士	文學博士	文學博士
法學博士	子爵大	新	渡戶	稻造	稻造	稻造
大學	久	久	久	久	久	久
大學	保	保	保	保	保	保
大學	利	利	利	利	利	利
大學	武	吉	武	吉	吉	吉
大學	高	松	高	松	豐	新
大學	鶴	見	鶴	見	豐	渡
大學	長	左	長	左	利	戶
大學	岡	吉	岡	吉	正	稻
大學	半	雄	半	雄	敏	造
大學	太	郎	太	郎	吉	稻
大學	田	萬	藏	藏	吉	造
大學	串		藏			
大學	山		藏			
大學	松		藏			
大學	浦		藏			
大學	鎮		藏			
大學	次		藏			
大學	郎		藏			
大學	郎		藏			
大學	郎		藏			
大學	直		藏			
大學	由		藏			
大學	在		藏			
大學	柳		藏			
大學	政		藏			
大學	太		藏			
大學	郎		藏			
大學	二		藏			

委員

文學博士	男爵	秀
文學博士	芳	平
工學博士	賀矢一	山成信
工學博士	秀太郎	塚本忠三
工學博士	靖郎	波三郎
工學博士	男爵斯	秀忠三郎
工學博士	男	秀忠三郎

145
145

大正十四年七月廿二日印刷

大正十四年七月廿五日發行

編纂兼發行者

財團法人啓明會

右代表者

笠森傳繁

東京市麹町區永樂町一丁目一番地

東京市小石川區原町十四番地
坂上一雄

東京市麹町區内幸町一丁目六番地
内 A 1 社

ジャパン

マガジン

發行所 財團法人啓明會事務所

東京市麹町區永樂町一丁目一番地東京海上
ビルディング五階五六號(電話牛込五一二六番)

終